学校法人西野学園

札幌心療福祉専門学校

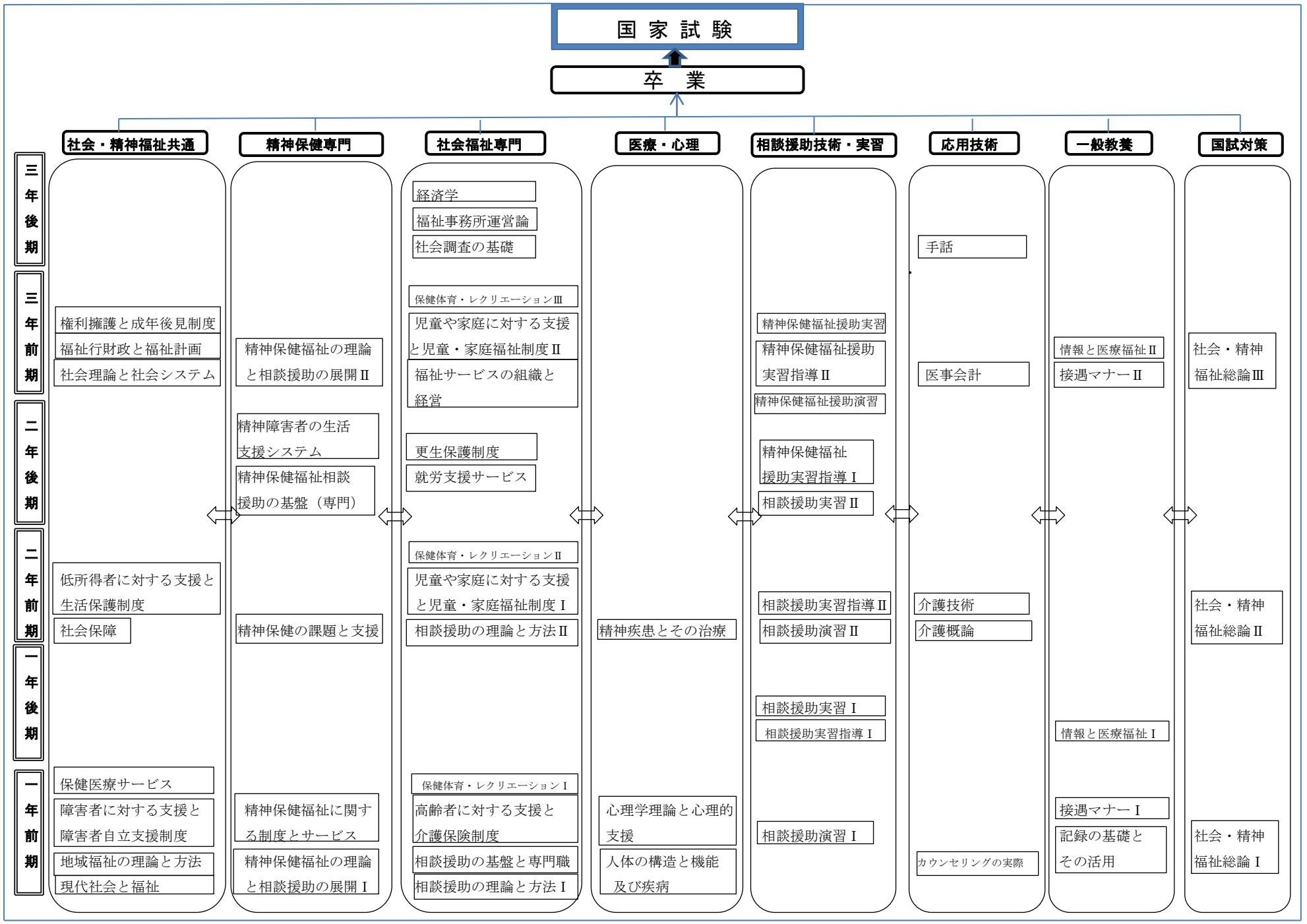
精神保健福祉科　シラバス

- 教育課程（カリキュラム）
- 科目系統図
- 1年次シラバス（2019 年入学生）
- 2年次シラバス（2018 年入学生）
- 3年次シラバス（2017 年入学生）

2019年度　精神保健福祉科カリキュラム【3年課程】

科目		区分	形式	1年次		2年次		3年次		合計
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
社会福祉専門科目	人体の構造と機能及び疾病	必修	講義	30						30
	心理学理論と心理的支援	必修	講義	30	30					60
	社会理論と社会システム	必修	講義					30		30
	現代社会と福祉	必修	講義	30	30					60
	社会調査の基礎	必修	講義						30	30
	相談援助の基盤と専門職	必修	講義	30	30					60
	相談援助の理論と方法Ⅰ	必修	講義	30	30					60
	相談援助の理論と方法Ⅱ	必修	講義			30	30			60
	地域福祉の理論と方法	必修	講義	30	30					60
	福祉行財政と福祉計画	必修	講義					30		30
	福祉サービスの組織と経営	必修	講義					30	30	60
	社会保障	必修	講義			30	30			60
	高齢者に対する支援と介護保険制度	必修	講義	30	30					60
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	必修	講義	30	30					60
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	必修	講義			30				30
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	必修	講義					30		30
	低所得者に対する支援と生活保護制度	必修	講義			30				30
	保健医療サービス	必修	講義	30						30
	就労支援サービス	必修	講義				15			15
	権利擁護と成年後見制度	必修	講義					30		30
	更生保護制度	必修	講義				15			15
	福祉事務所運営論	必修	講義						30	30
	保健体育・レクリエーションⅠ	必修	演習	30						30
	保健体育・レクリエーションⅡ	必修	演習			30				30
	保健体育・レクリエーションⅢ	必修	演習					30		30
	介護概論	必修	講義			30	30			60
	経済学	必修	講義						30	30
	相談援助演習Ⅰ	必修	演習	40	40					80
	相談援助演習Ⅱ	必修	演習			40	30			70
	相談援助実習指導Ⅰ	必修	演習		30					30
	相談援助実習指導Ⅱ	必修	演習			40	20			60
	相談援助実習Ⅰ	必修	実習		30					30
	相談援助実習Ⅱ	必修	実習				184			184
精神保健福祉専門科目	精神疾患とその治療	必修	講義			30	30			60
	精神保健の課題と支援	必修	講義			30	30			60
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	必修	講義				30			30
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	必修	講義	30	30					60
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	必修	講義					30	30	60
	精神保健福祉に関する制度とサービス	必修	講義	30	30					60
	精神障害者の生活支援システム	必修	講義				30			30
	精神保健福祉援助演習	必修	演習					30	30	60
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	必修	演習				30			30
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	必修	演習					60		60
	精神保健福祉援助実習	必修	実習					150		150
特設科目	社会・精神福祉総論Ⅰ	必修	講義	12	3					15
	社会・精神福祉総論Ⅱ	必修	講義			20	10			30
	社会・精神福祉総論Ⅲ	必修	講義					40	35	75
	カウンセリングの実際	必修	講義	30	30					60
	介護技術	必修	演習			30				30
	情報と医療福祉Ⅰ	必修	演習		30					30
	情報と医療福祉Ⅱ	必修	演習					30		30
	医事会計	必修	講義						30	30
	記録の基礎と活用	必修	講義	30						30
	手話	必修	演習						30	30
	接遇マナーⅠ	必修	演習	15						15
	接遇マナーⅡ	必修	演習					15		15
合計				487	433	370	514	535	275	2,614

精神保健福祉科科目系統図



2019年　精神保健福祉科1年　履修科目一覧

科目名	形式	1年次		合計
		前期	後期	
人体の構造と機能及び疾病	講義	30		30
心理学理論と心理的支援	講義	30	30	60
現代社会と福祉	講義	30	30	60
相談援助の基盤と専門職	講義	30	30	60
相談援助の理論と方法Ⅰ	講義	30	30	60
地域福祉の理論と方法	講義	30	30	60
高齢者に対する支援と介護保険制度	講義	30	30	60
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	30	30	60
保健医療サービス	講義	30		30
保健体育・レクリエーションⅠ	演習	30		30
相談援助演習Ⅰ	演習	40	40	80
相談援助実習指導Ⅰ	演習		30	30
相談援助実習Ⅰ	実習		30	30
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	講義	30	30	60
精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	30	30	60
社会・精神福祉総論Ⅰ	講義	12	3	15
カウンセリングの実際	講義	30	30	60
情報と医療福祉Ⅰ	演習		30	30
記録の基礎と活用	講義	30		30
接遇マナーⅠ	演習	15		15

人体の構造と機能及び疾病　（全１５回）	精神保健福祉科	１年	前期
	担当教員	山 原　由 美 子	

●授業概要

★この授業のねらい

多様な社会問題が増加する社会において、福祉と医療との連携は欠かせません。精神保健福祉士として適切な支援、実のある多職種協働を目指すために医学に関する基本的な知識の習得に留まらず、人の共通性と個性に視点をあてながら、人生の機微に付き合える人材になることを学びます。

★仕上がり像

1　心身の機能と構造を理解し、説明することができる。
2　代表的な種々の疾患と障害を説明することができる。
3　健康の視点に立ち、心身のダイナミズムが説明することができる。

●授業内容

1	人の成長・発達と老化（身体の成長・発達）
2	人の成長・発達と老化（精神の成長・発達、老化）
3	身体構造と心身の機能（人体の名称・水分と脱水・血液の成分・心臓の構造）
4	身体構造と心身の機能（部位の名称・腎臓、呼吸器の構造・消化と吸収）
5	身体構造と心身の機能（神経の構造と機能・内分泌器官、生殖器の機能）
6	身体構造と心身の機能（支持運動器官・感覚器・皮膚・身体機能の調節）
7	疾病の概要（生活習慣病と末病・悪性腫瘍・脳血管疾患）
8	疾病の概要（心疾患・高血圧・糖尿病と内分泌疾患）
9	疾病の概要（呼吸器疾患・消化器疾患・血液疾患と膠原病）
10	疾病の概要（腎臓疾患・泌尿器系疾患・骨・関節疾患）
11	疾病の概要（目・耳の疾患・感染症・神経疾患と難病）
12	疾病の概要（先天性疾患・その他の高齢者に多い疾病・終末期医療と緩和ケア）
13	障害の概要
14	リハビリテーションの概要
15	ＩＣＦの基本的な考え方と概要　第７章　　健康のとらえ方
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験・発表や発言の質・量、討論への積極性・提出物等を総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　第１巻　人体の構造と機能及び疾病」　（中央法規出版）
参考図書：「疾患別看護過程」（医学書院2016年）　「老年看護過程」（医学書院2016年）
「人体の不思議」（宝島社2017年）「病気の地図帳」（講談社2017年）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

医療と福祉が連携し高齢者や障害者の生活を支援していくためには、基本的な医学的知識が必要です。医学専門用語や疾患が多く出てきますので、ひとつひとつ整理して覚えていきましょう。

心理学理論と心理的支援　　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	吉　川　　暢	

●授業概要

★この授業のねらい

人間の行動や対人関係において起きうる様々な事象を、心という視点から考える学問が心理学であると言っていいでしょう。当然ですが心は目に見えるものではなく、測定や考察するための方法については数々の試行錯誤が行われてきました。そういった方法論も含め概説します。将来ソーシャルワーカーとして活動する際に役立つ知見も多いと思われます。

使われる用語は難解に見えることが多いかも知れませんが、多くは日常よく見られる現象のことでもあります。自分自身の生活に引き寄せて理解してもらいます。

★仕上がり像

1　心理学の概要を理解し、説明することができる。
2　心理学的な見方、考え方について説明することができる。

●授業内容

1	心理学の歴史、福祉実践と心理学	16	発達段階、アタッチメント
2	パーソナリティ	17	障害と発達、高齢者、発達検査
3	感情	18	ストレスが身体に及ぼす影響
4	欲求と動機づけ	19	ストレス反応の個人差と心理的反応
5	葛藤と欲求不満	20	ストレスから回復するための資源
6	感覚、知覚、認知	21	面接、カウンセリングと心理療法
7	学習	22	心理検査による見立て（質問紙法）
8	記憶	23	心理検査による見立て（投影法）
9	知能	24	心理療法（来談者中心療法）
10	知能の発達、創造性、思考	25	心理療法（精神分析療法）
11	対人認知、自己開示	26	心理療法（行動療法）
12	集団、人間関係	27	心理療法（遊戯療法ほか）
13	コミュニケーションの基礎知識	28	心理療法（短期療法ほか）
14	傾聴、アサーション	29	心理療法（ＳＳＴ、心理劇）
15	発達の定義、発達の概念	30	脳と心、まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、定期試験などを総合して評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集

「新・社会福祉士養成講座　第２巻　心理学理論と心理的支援」　（中央法規出版）

その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

多くの人が想像する以上に広い分野に渡る内容ですが、身近に起きていること、体験していることがほとんどです。毎回紹介する概念や理論を、自分自身の経験に照らし合わせたり、新しい視点として取り入れることを意識して取り組みましょう。

現代社会と福祉　　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	岩　本　　希	

●授業概要

★この授業のねらい

「社会福祉」あるいは「福祉」という言葉は、昨今の少子高齢化の進展などに伴ってよく耳にすると思います。しかしながら、必ずしもその考え方や意味を正確に捉えきれていないことが多いかもしれません。

この講義は、私たちが暮らす社会の中で起きているさまざまな問題を「社会福祉」という枠組みに照らし合わせて理解することをねらいとしています。

★仕上がり像

1　福祉制度、福祉政策についてその概念やそれらを構成している理論、哲学、歴史を説明することができる。
2　福祉政策の課題、諸外国と比較した特徴、福祉政策の構成要素と関連する諸施策について説明することができる。
3　制度と実践の関係を押さえ、説明することができる。

●授業内容

1	視点と枠組み　福祉政策と社会福祉士養成課程	16	前半のまとめ
2	社会の変化と福祉　（社会福祉の歴史）	17	福祉政策の理念・主体・手法（10の理念について）
3	社会の変化と福祉（現代社会の変化と福祉）	18	福祉政策の理念・主体・手法（資源配分システム）
4	福祉と福祉政策（福祉および福祉政策とは）	19	福祉政策の理念・主体・手法（政策決定過程）
5	福祉と福祉政策（社会福祉士の役割と機能）	20	福祉政策の関連領域（人権擁護・雇用等について）
6	福祉の思想と哲学（社会福祉を支える思想）	21	福祉政策の関連領域（教育・住宅等について）
7	福祉の思想と哲学（ロールズとセンに学ぶもの）	22	社会福祉制度の体系（制度の構造）
8	社会政策と福祉政策（社会政策とは）	23	社会福祉制度の体系（制度と福祉サービス）
9	社会政策と福祉政策（福祉政策の体系）	24	福祉サービスの提供　提供＝利用過程
10	福祉政策の発展過程（近代化）	25	福祉サービスと援助活動（相談援助の原則）
11	福祉政策の発展過程（戦後改革と高度経済成長期）	26	福祉サービスと援助活動（地域福祉への展開）
12	少子高齢化時代の福祉政策（福祉元年以降）	27	福祉政策の国際比較（欧米の福祉政策）
13	少子高齢化時代の福祉政策（1990年代以降）	28	福祉政策の国際比較（東アジア諸国の福祉政策）
14	福祉政策における必要と資源（必要とは何か）	29	福祉政策の課題と展望　社会不安と福祉政策の課題
15	福祉政策における必要と資源（必要と福祉政策）	30	後期のまとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

31回目に定期試験を実施します。評価は定期試験、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性などをもとに総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉養成講座　第４巻　現代社会と福祉」　（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

社会福祉の歴史や考え方、現在の福祉制度を中心に扱います。福祉の現状や課題についても検討していきますので、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること、新聞やニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つことを期待します。

相談援助の基盤と専門職　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	鈴　木　　基　之	

●授業概要

★この授業のねらい

みなさんがソーシャルワーカーと聞いて思い浮かべる役割はどんなものでしょうか。この授業では、「ソーシャルワーカーは何をする仕事なの」という基本的なことについて一年を通して学びます。

相談援助を行う上での価値や倫理、理論等を具体的な事例をもとにイメージしながら学びましょう。

★仕上がり像

相談援助の役割と意義、倫理、価値、理論や方法論を踏まえて自分なりのソーシャルワーカー像をイメージし、他者に説明することができる。

●授業内容

1	相談援助とは何か。ソーシャルワーカーって。	16	専門職倫理の概念
2	社会福祉士の役割と意義	17	倫理綱領の意義と内容
3	現代社会と地域生活	18	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ
4	ソーシャルワークの概念	19	「総合的かつ包括的な相談援助」の動向とその背景
5	ソーシャルワークの構成要素	20	地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
6	ソーシャルワークの源流	21	地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能
7	ソーシャルワークの基礎確立期	22	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点
8	ソーシャルワークの発展期	23	ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質
9	ソーシャルワークの展開期	24	相談援助専門職の概念
10	ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク	25	相談援助専門職の範囲
11	ソーシャルワーカーと価値	26	個と地域の一体的支援機能・予防機能
12	ソーシャルワークの実践と価値	27	新しいニーズへの対応
13	ソーシャルワーク実践と権利擁護	28	総合的支援機能・多問題家族への支援
14	クライエントの尊厳と自己決定	29	権利擁護機能・社会資源開発機能
15	ノーマライゼーションと社会的包摂	30	相談援助の基盤と専門職のまとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（31回目に実施）と授業への取り組み姿勢（挙手、発言の量や質）を元に総合的に評価します。

定期試験（80%）、授業への取り組み（20%）を目安として評価します。

●教科書・参考図書

新・社会福祉士養成講座6　「相談援助の基盤と専門職」（中央法規）
必要な講義プリントはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

ソーシャルワークの歴史的源流をたどりながら、各理論との関連を学んでいくことになります。テキスト巻末の索引を参考にしながら、各理論の整理をしましょう。理論を理解したかどうかの目安には、人に説明できるかがひとつの基準になります。授業で取り上げられた理論を他者に説明してみましょう。

相談援助の理論と方法Ⅰ　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	大　植　友　樹	

●授業概要

★この授業のねらい

多様化してきているニーズの対応に相談援助していく上で、展開過程について受理面接にはじまり終結にいたるまでの一連の流れを理解します。その多様化しているニーズは、その課題にのみ焦点をあてて問題解決は図るのではなく、その人を取り巻く環境も視野に入れ、人と環境の交互作用の概念を理解します。また、人の価値観や環境や社会資源は時代と共に変化してきており、最新情報を取り入れながら、実践イメージがつくよう授業を展開していきます。

★仕上がり像

1　相談援助における構造と機能、人と環境との交互作用に関する理論について説明することができる。
2　相談援助の過程とそれに係る知識と技術について説明することができる。

●授業内容

1	相談援助とは（ソーシャルワーカーの役割）	16	相談援助のためのアウトリーチの技術（意義と目的）
2	相談援助とは（ソーシャルワークを構成する要素）	17	相談援助のためのアウトリーチの技術（方法と留意点）
3	相談援助の構造と機能（ソーシャルワークの構造）	18	相談援助のための契約の技術
4	相談援助の構造と機能（ソーシャルワークにおけるニーズ・機能）	19	相談援助のためのアセスメントの技術（アセスメントの特性と情報収集）
5	ソーシャルワーカーの価値について（事例検討）	20	実在するケースの事例検討（グループワーク）
6	人と環境の交互作用	21	実在するケースの事例検討（グループワーク）
7	相談援助における援助関係（援助関係の意義）	22	相談援助のための介入技術と経過観察
8	相談援助における援助関係（援助構造）	23	相談援助のための再アセスメント、効果測定
9	相談援助における援助関係（援助関係の質）	24	相談援助のための評価とサービス開発
10	相談援助における援助関係（事例検討）	25	相談援助における面接の目的・展開・形態
11	相談援助の展開過程Ⅰ（ケース発見と受理面接からニーズ確定まで）	26	相談援助のための記録の技術
12	相談援助の展開過程Ⅰ（ニーズ確定から目標設定まで）	27	支援開始から終結までの事例検討（グループワーク）
13	相談援助の展開過程Ⅰ（支援の計画から支援の実施まで）	28	支援開始から終結までの事例検討（グループワーク）
14	相談援助の展開過程Ⅱ（経過観察・支援の強化・支援の終結）	29	相談援助のための交渉の技術（プレゼンテーションの技術）
15	相談援助の展開のまとめ（事例検討）	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験　（３１回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価します。
定期試験（８０％）、授業への取り組み状況（２０％）を目安として評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新社会福祉士養成講座　第７巻　相談援助の理論と方法Ⅰ」（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

相談援助における人と環境は交互作用があり、専門職として相談援助していく上で必要な視点を学ぶことが大切になります。授業で学習した内容を事例を基に皆で支援方法を考えていくディスカッション形式やグループワークも取り入れます。また、その分野で活躍している現場のソーシャルワーカーにもゲストで講師をして頂きます。実際の支援は多角的に見ていく必要があるため、正解が複数ある事も多く、積極的かつ柔軟に発想することで、実践力を身に付けていただきたいと思います。

地域福祉の理論と方法　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	福　島　令　佳	

●授業概要

★この授業のねらい

みなさんは、自分の住む地域の町内会行事に参加したことがありますか。町内会も地域福祉を実現する上で大切な存在です。このように身近なところから、テキストを通じてどんどんイメージを広げていきましょう。地域福祉の歴史的展開、行政と住民の協働システムづくり、地域福祉を推進する方法論としてのコミュニティソーシャルワーク機能、地域自立生活支援のためのトータルケアについて事例や具体例とともに学びます。

★仕上がり像

1　地域福祉の理論について、各種キーワードを説明できる。
2　地域福祉の方法についてコミュニティソーシャルワークを具体的にイメージし、説明できる。

●授業内容

1	地域福祉の発展過程（欧米）	16	保護司（制度）
2	地域福祉の発展過程（日本）	17	保護司（更生保護）
3	新しい福祉サービスとしての地域福祉	18	保護司（実践事例）
4	地域福祉の理念と地域自立生活支援	19	コミュニティソーシャルワーク
5	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（アウトリーチの意義）	20	専門多職種のチームアプローチ・住民参加
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（把握の方法）	21	ソーシャルサポート
7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（把握の実際）	22	社会資源の概要
8	地域のとらえ方	23	地域トータルケアシステム
9	福祉教育・地域福祉計画	24	ソーシャルケア従事者の研修と組織化
10	社会福祉協議会・社会福祉法人の役割と実際	25	福祉サービスの評価
11	NPO法人の役割とボランティア活動（概要）	26	災害支援と地域福祉（方法）
12	NPO法人の役割とボランティア活動（事例）	27	災害支援と地域福祉（実践事例）
13	コミュニティビジネス	28	海外の考え方（アメリカ・イギリス）
14	民生委員・児童委員	29	海外の考え方（支援事例）
15	前期のまとめ	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（31回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価する。

●教科書・参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会編集　「新社会福祉士養成講座　第9巻　地域福祉の理論と方法」（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

難解な用語が多い科目で戸惑うかもしれませんが、例えば、町内会など身近な地域福祉資源と結び付けてイメージしていくと地域福祉の具体的な姿が浮かび上がってきます。自分の住んでいる地域に関心を持つところから始めましょう。

高齢者に対する支援と介護保険制度 （全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	牧　田　俊　樹	

●授業概要

★この授業のねらい

本講義では、現代社会における高齢者問題について理解を深めるとともに、高齢者の身体的・心理的特性について理解します。そして、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要を理解していきます。

また、高齢者福祉における支援活動について、各種制度・サービスを体系的に学び、そこに関わる専門職と支援体制・サービス提供組織等の実践活動の全体像を把握します。そのうえで、高齢者ケアの理念、施設と在宅のケアの歩みと現状･課題、地域ケアシステムの形成と課題について理解するとともに、介護の概念やその理念等について理解していきます。

★仕上がり像

1　高齢者の特性を踏まえ、高齢者・家族の社会環境や抱える諸問題を説明することができる。
2　高齢者福祉の制度と関連諸施策や諸サービス等の社会資源および相談援助技術を説明することができる。
3　高齢者・家族に対する支援・相談援助等の事例を理解し、福祉専門職（ソーシャルワーカー）の実践活動について説明することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション□・高齢者福祉を学ぶこととは	16	介護保険法における組織及び団体の役割と実際
2	現代社会と高齢者問題 （少子高齢社会の特徴）	17	介護保険のサービス体系 （介護支援専門員と介護支援サービス）
3	現代社会と高齢者問題 （高齢者を取り巻く社会的問題）	18	介護保険のサービス体系 （居宅サービスと施設サービス）
4	高齢者の理解 ・身体及び精神的特性	19	介護保険のサービス体系 （地域密着型サービスと介護予防サービス）
5	生涯発達とエイジング（高齢者の社会低特性） ・生涯発達の考えと高齢者の生活の変化	20	介護保険のサービス体系 （地域支援事業）
6	エイジズム（年齢差別・老人差別）の理解 ・エイジズムの概念の理解とわが国の状況	21	介護保険における専門職の役割と実際
7	高齢者福祉の歴史 ・高齢者福祉制度の発展過程	22	高齢者支援の方法と実際 ・介護保険におけるネットワーキングと実際
8	高齢者保健福祉制度・施策の体系 （老人福祉法）	23	地域包括支援センターの役割と実際
9	高齢者保健福祉制度・施策の体系 （高齢者の医療の確保に関する法律）	24	高齢者の地域ケアとケアマネジメント
10	高齢者保健福祉制度・制度の体系 （高齢者虐待防止法、その他の関係法規）	25	高齢者ケアの理念 ・ケアの本質と支援の考えかた
11	介護保険制度の概要 （介護保険制度の目的と理念）	26	介護をめぐる問題と高齢者虐待 ・家族介護をめぐる問題と虐待に関する理解
12	介護保険制度の概要 （介護保険制度の保険財政と保険者・被保険者）	27	介護過程
13	介護保険制度の概要 （要介護認定の仕組みとプロセス）	28	認知症ケアと終末期ケア
14	介護保険制度の概要 （保険給付と介護報酬、介護保険事業計画）	29	介護と住環境
15	まとめ（小括）	30	まとめ（総括）
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（70%）・平常点（30%）の割合で総合評価します。
平常点は、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに判断します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　第13巻　高齢者に対する支援と介護保険制度」
（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

1　少子高齢化による種々の問題に関心を持ち、日ごろから情報収集に努めてください。
2　出身地や現在の居住地の高齢者ケアについて状況を把握するよう努めてください。

障害者に対する支援と 障害者自立支援制度　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	牧　田　俊　樹	

●授業概要

★この授業のねらい

近年の障害者に関する制度や支援の取り組みは、大きく変わりました。障害の種別毎に分かれていた制度も、一元化した制度へ改正されました。また、障害者自身が制度の策定に関わるようになっています。この授業では、それらの歴史を踏まえ、障害者を取り巻く状況と支援のあり方について、理解を深めていきます。

★仕上がり像

1　障害者の生活実態や障害者を取り巻く社会情勢を考慮した支援を行うことができる。

2　障害者総合支援法等の制度やサービスへの知識を深め、適切なサービスの選択が行うことができる。

●授業内容

1	障害とは何か	16	障害者総合支援法の制定
2	障害者の生活実態・福祉・介護需要	17	自立支援給付（介護給付）
3	障害者を取り巻く社会情勢（戦後）	18	自立支援給付（訓練等給付）
4	障害者を取り巻く社会情勢（1990年代）	19	自立支援給付（地域相談支援、計画相談支援）
5	障害者を取り巻く社会情勢（近代）	20	自立支援給付（自立支援医療）
6	障害者基本法と心身障害者対策基本法	21	自立支援給付（補装具）
7	障害者基本法の改正	22	支給決定のプロセス
8	身体障害者福祉法	23	専門職の役割
9	知的障害者福祉法	24	障害者サービスの実際
10	発達障害者支援法	25	地域生活支援事業
11	難病に関する法律	26	苦情解決、審査請求
12	各省庁の障害者施策等	27	障害児に対する支援
13	障害者虐待防止法	28	多職種連携とネットワーキング
14	バリアフリー新法	29	多職種連携とネットワーキングの実際
15	中間まとめ	30	全体のまとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（70%）・平常点（30%）の割合で総合評価します。
平常点は、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに判断します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　第１４巻　障害者に対する支援と障害者自立支援制度」
（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

この授業で学ぶ制度やサービスは多岐に渡ります。障害者が置かれている現状を整理しながら、覚えていきましょう。

保健医療サービス　　（全１５回）	精神保健福祉科	１年	前期
	担当教員	飯　島　英　幸	

●授業概要

★この授業のねらい

少子高齢社会、地域格差、生活習慣病の増加などを背景として、わが国では保健医療サービスへの国民のニーズが高まり、その内容も複雑化し、医療サービス体系に大きな変化が生まれました。そのため、医療保健に関する制度改変もあり、医療保健施設で行われるサービスの内容も多様化しています。医療施設や医療専門職種間の連携のあり方も大きく変貌しており、これまでの歴史的展開を理解しつつ、それら諸知識の習得を目指します。

★仕上がり像

1　医療保険制度の概要について説明することができる。
2　保健医療サービスの概要と保健医療サービスにおける多職種協働について説明することができる。

●授業内容

1	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割（構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充）
2	保健医療サービスの変化と社会福祉士の役割（医療法改正にみる保健医療サービスの課題、医療連携・チーム医療の推進）
3	保健医療サービスを提供する施設とシステム（医療施設の機能、保健医療政策による医療施設）
4	保健医療サービスを提供する施設とシステム（診療報酬における医療施設・介護保険法における施設等）
5	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み 業務の内容　ミクロ
6	業務の内容　メゾ、マクロ
7	保健医療サービスの専門職の役割（概観、基本的姿勢）
8	保健医療サービスの専門職の役割（各専門職の視点と役割）
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要
10	介護保険制度と介護報酬の概要　公費負担医療制度の概要
11	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践（連携・チームケア）
12	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践（協働）
13	地域の保健医療ネットワークの構築
14	地域ケアネットワークの実際
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価する。

●教科書・参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会編集　「新社会福祉士養成講座　第１７巻　保健医療サービス」（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

保健医療分野において、地域包括ケアシステムを推し進め、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムのことを指し、多くの職種が関わることになり、多職種との協働は欠かすことができません。それぞれの専門職の役割を理解し、保健医療の視点から支援について考えていきます。

保健体育・レクリェーションⅠ（全１５回）	精神保健福祉科	１年	前期
	担当教員	伊　東　祥　次	

●授業概要

★この授業のねらい

スポーツを通して心と体の健康づくりを目指すと共に、レクリェーションの展開技術を習得し、人とのつながりの大切さを学びます。

★仕上がり像

1　各種目の実技を通して、心身の健康づくりを体得することができる。
2　レクリェーションによって得られる心の豊かさを実感し、職場で実践することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション　からだほぐし運動　（ストレッチング：個人、パートナーストレッチング）
2	からだほぐし運動　（いろいろな動作を取り入れた運動・とびなわ運動）
3	バスケットボール～基本技術の練習（パス・ドリブル）・ゲーム
4	バスケットボール～基本技術の練習（シュート）・ゲーム
5	バスケットボール～ゲーム
6	バスケットボール～ゲーム
7	バレーボール～基本技術の練習（パス・サーブ）ゲーム（ソフトバレー）
8	バレーボール～基本技術の練習（パス・サーブ・スパイク）ゲーム
9	バレーボール～ゲーム
10	バレーボール～ゲーム
11	バドミントン～ストローク練習　ダブルスゲーム
12	バドミントン～ストローク練習　ダブルスゲーム
13	フットサル　～パス練習とゲーム
14	レクリェーションスポーツ
15	レクリェーションスポーツ

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、技能テストにより総合評価します。

●教科書・参考図書

自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

1　運動しやすいジャージやＴシャツを着用してください。
2　靴は滑りにくいスポーツシューズを履いてください。
3　タオルやドリンク等暑さ対策をしてください。
4　身体を動かすことに積極的に取り組みましょう。

相談援助演習Ⅰ　（全40回）	精神保健福祉科	1年	通年
	担当教員	中　尾　秀　美	

●授業概要

★この授業のねらい

社会福祉士相談援助実習を行う前の学習として、自己覚知、基本的なコミュニケーション技術や面接技術、専門職が保持しなくてはならない価値観を知識、技術として修得する。

★仕上がり像

1　相談援助場面で必要とされる基本的な知識、技術、価値観、面接技術、自己理解、対象者像、援助・支援の実際について理解でき説明できる。

2　相談援助場面で必要とされる援助・支援の基本を理解し、相談援助技術を身に付け実践できる。

●授業内容

1	相談援助演習の導入	21	受容/自己決定の支持
2	相談援助演習の目的と意義	22	記録/自分をマッピング
3	ソーシャルワークの視点と実践	23	平等と尊厳
4	援助対象者を取り巻く環境	24	カウンセリングにおける基本的傾聴技法
5	人を取り巻く環境	25	カウンセリングにおける積極技法
6	専門職の倫理	26	基本的な対象者との応答技法
7	ソーシャルワーク価値のジレンマと意義	27	質問の種類
8	ソーシャルワークにおける関係性	28	相談・助言の技法
9	援助・支援する課題発見、情報収集と分析	29	信頼関係を築くための態度
10	援助・支援する計画の作成	30	援助対象者に関わる際の基本動作
11	援助・支援の実行と点検	31	個人の価値と専門職の価値
12	自分を守っているものと対人魅力	32	搭乗者リスト/八つの価値
13	ファッションでのコミュニケーション	33	価値観/若い旅人の物語
14	自己コントロールと自己呈示	34	エンパワメント
15	見方を変えてみる	35	地域での自立生活支援のあり方
16	コミュニケーションの基本	36	地域での生活と支援ネットワーク
17	コミュニケーションの効果	37	ブレーンストーミング
18	ストレングス視点/自己肯定感	38	エゴグラム
19	準言語/アクティブリスニング	39	自己開示
20	傾聴と共感	40	ジョハリの窓

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、発表や発言の内容、話し合いでの積極性、提出物の内容をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書　：一般社団法人日本社会福祉士養成校協会　監修　　□

「社会福祉士相談援助演習」　（中央法規出版）

その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

テキスト使用の場合は、予習として次の授業の範囲を読んできてください。

相談援助実習指導Ⅰ　（全１５回）	精神保健福祉科	１年	後期
	担当教員	佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

相談援助実習は教育現場と実践現場を結ぶ「場」として、また社会福祉を総合的に学ぶ「場」として位置づきますが、この授業はこれまで学んだ理論を検証し、社会福祉専門職の自覚を養い、実習効果を上げるための事前学習としての目的を持ちます。次年度の相談援助実習に向けて、実習前、実習中、実習後の一貫した流れを理解し、それぞれの段階において目的や達成課題について学びます。

★仕上がり像

1　相談援助実習についての意味、目的について理解し、相談援助実習の準備として何が必要なのか議論することができる。
2　現場でのソーシャルワーカーの業務や役割について事例を通して理解し、実習の準備に反映することができる。

●授業内容

1	相談援助実習の意義と位置づけ		
2	事前の学習課題		
3	実習のルール		
4	実習中の各種課題		
5	自己コンピテンス		
6	自己コンピテンスのフィードバック		
7	実習事例の学習（高齢者分野）		
8	実習事例の学習（知的障害者分野）		
9	実習事例の学習（児童分野）		
10	実習事例の学習（身体障害者分野）		
11	相談援助実習先施設機関の理解		
12	実習先検討（希望調書配布）		
13	実習先検討（希望調書作成）		
14	実習先検討（希望調書提出）		
15	まとめ		

●成績評価のしかた

提出物・発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

２年次の相談援助実習Ⅱに向けての授業となり、１年次より実習を行う目的や意味を理解することと自己コンピテンスは自分の考えの傾向や現状の能力を理解する機会となるため、しっかりと回答し充実した実習につなげてほしいです。また、事例検討などでグループワークを行う際には積極的な姿勢で取り組んでいきましょう。

相談援助実習Ⅰ　（全３０時間）	精神保健福祉科	１年	後期
	担当教員	各施設実習指導担当者 佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

講義や演習などで学んだ社会福祉に関する法律・政策などの知識を深めるために、実際の現場（福祉事務所）について理解を深める実習を受け、２年次の相談援助実習Ⅱへ繋げていけるようにします。

また、福祉事務所の役割を学んだ上で、社会福祉施設見学実習を行い、行政（福祉事務所）との関わりや連携の実際について理解を深めます。

★仕上がり像

1　相談援助に必要な社会福祉に関する法律・制度、政策などを説明することができる。
2　福祉事務所の役割について説明することができる。
3　施設見学実習から福祉事務所と社会福祉施設との連携の実際について説明することができる。

●授業内容

	社会福祉主事実習（２４時間） 実際の現場から社会福祉に関する法律・政策の運用等について理解 福祉事務所の役割を理解 社会福祉施設見学実習（６時間） 社会福祉施設と福祉事務所との連携		

●成績評価のしかた

実習への取り組みや報告書などにより総合的に評価します。

●教科書・参考図書

自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

はじめての相談援助実習となり、福祉事務所は何をする機関なのか意識を持ちながら実習に取り組むことを期待します。また、個人守秘義務と個人情報保護法を順守してください。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ （全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	酒　井　　啓	

●授業概要

★この授業のねらい

精神障害者が歩んできたきた歴史を学ぶことで、精神障害者の抱えている思いを理解します。また、今日の課題は長期入院を解消し地域生活への移行を一層進めることである。その一助を担う精神保健福祉士が行う地域移行への支援を歴史的背景、実際に臨床で行うリハビリテーション、ケアマネジメント、面接技術等の視点から学習をしていきます。

★仕上がり像

1　精神保健医療福祉における歴史的背景を理解し、説明することができる。

2　精神科リハビリテーションの基礎を理解し、具体的なアプローチの方法を説明することができる。

3　相談援助の過程を理解し、支援計画を立てることができる。

●授業内容

1	オリエンテーション	16	精神専門療法
2	日本の精神保健医療福祉の歴史	17	家族教育プログラム
3	国際的動向と日本への影響、民間活動の歴史	18	精神科デイケア
4	アメリカ、カナダ、イギリスの精神保健福祉制度の変遷	19	医療機関のアウトリーチ、チーム医療の概要
5	イタリア、フランス、韓国、ニュージーランドの精神保健福祉制度の変遷	20	精神障害者支援の実践モデル
6	精神保健福祉士における活動の歴史	21	ケース発見、受理面接と契約
7	精神障害者支援の理念	22	課題分析
8	精神保健福祉領域における支援対象	23	支援計画
9	精神障害者の人権	24	支援の実施と経過の観察
10	精神科リハビリテーションの概念	25	効果測定と支援の評価、終結とアフターケア
11	精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則	26	面接を効果的に行う方法
12	精神科リハビリテーションの構成と展開	27	面接技法
13	リハビリテーションのプロセス	28	スーパービジョン
14	アプローチの方法	29	コンサルテーション
15	疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（３１回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性、課題の提出等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

日本精神保健福祉養成校協会　編集

「新・精神保健福祉養成講座　第４巻　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」　（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

精神障害者が地域で生活していく第一歩となるリハビリテーションや専門家として身に付けなければならない技術の授業です。障害者が当たり前の生活が送れるか否かはリハビリテーションが大きな役割を果たします。大変重要な内容のため積極的に取り組んでください。

精神保健福祉に関する制度とサービス （全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	佐　藤　誉　匡	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉士は、専門職としての価値や倫理に基づき、精神保健福祉に関する制度とサービスを熟知し活用して相談援助活動を展開しています。また、制度とサービスは人々により作られ、作り変えられてきた背景があります。本授業では、精神保健福祉士が援助を展開する上で必要不可欠となる制度及びサービス、精神障害者が置かれてきた歴史と今後の課題及び現状等について知識を深めることを目標とします。

★仕上がり像

1　精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉分野の法律との関わりについて説明することができる。
2　精神障害者の支援に関連する制度と福祉サービスの知識及び支援内容について説明することができる。
3　精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について説明することができる。
4　精神保健福祉分野の法律の変遷及び今後の展望を説明することができる。

●授業内容

1	精神障害者がおかれてきた状況	16	国、都道府県、市町村における精神障害者福祉施策 公費負担制度
2	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス	17	精神障害者の地域移行と地域定着を支える障害者サービス
3	精神病者監護法から精神保健法成立までの経緯	18	事例検討 ～ アウトリーチ
4	精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯	19	高次脳機能障害者の支援施策、アルコール依存・薬物依存支援施策 相談援助にかかわる主な民間組織
5	精神保健福祉法成立の意義とその後の変化	20	精神障害者と社会保障制度 経済的支援制度（生活保護制度）
6	保護者制度の変遷	21	経済的支援制度（障害年金、経済負担の軽減）
7	精神保健福祉法（第1条～第9条）と精神保健福祉士の役割	22	相談援助にかかわるインフォーマルな社会資源と専門職や地域住民の役割
8	精神保健福祉法（第12条～第19条）と精神保健福祉士の役割	23	司法・医療・福祉の連携の必要性と実際
9	精神保健福祉法（第20条～第34条）の概要	24	施設コンフリクトの実際と対応
10	精神保健福祉法（第20条～第34条）と精神保健福祉士の役割	25	医療観察法 ～ 成立背景、目的、対象者、当初審判までの流れ(前半)
11	精神保健福祉法（第36条～第41条）と精神保健福祉士の役割	26	医療観察法 ～ 当初審判までの流れ(後半)
12	精神保健福祉法（第45条）と精神保健福祉士の役割	27	医療観察法 ～ 社会復帰調整官、指定入院医療機関
13	精神保健福祉法（第46条～第53条）と精神保健福祉士の役割 精神保健福祉の動向	28	医療観察法 ～ ケアプログラムアプローチ（ＣＰＡ）会議 退院申立ての審判
14	障害者基本法と精神障害者施策との関わり 『参加』『共生』『平等』とは	29	医療観察法 ～ 指定通院医療機関、精神保健観察 処遇実施計画とケア会議
15	障害者自立支援法から障害者総合支援法へ 障害者総合支援法に基づく相談支援	30	医療観察法 ～ 処遇終了、医療観察法施行後の現状と課題 総合まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質と量、討論への積極性、提出物などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：日本精神保健福祉士養成校協会編集
「新･精神保健福祉士養成講座　第６巻　精神保健福祉に関する制度とサービス」
（中央法規出版）
参考資料は必要に応じてを配布します。

●履修へのアドバイス

精神保健福祉士として働く上で必要とされる制度と法律の知識を、一つ一つ整理して覚えていきましょう。覚えた制度と法律の知識は２年次、３年次の精神保健福祉分野の授業においても不可欠になります。また、精神保健福祉に関する最新の情報にも目を向け、現状を把握していきましょう。

社会・精神福祉総論Ⅰ　（全８回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	大宮司　信・酒井　啓	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉士・社会福祉士の国家試験は日頃の授業で学ぶ内容以上に高度で難解な傾向があるため、１年次から問題に慣れるよう、実際の試験問題に取り組み、知識の定着を図ります。

★仕上がり像

１　国家試験問題を通して１年生で学習した知識の定着を図り、基礎的な問題について解くことができる。

●授業内容

1	社会・精神福祉総論Ⅰについて
2	一般教養演習（二大精神疾患の理解：統合失調症、そううつ病）
3	一般教養演習（アルコール依存症の理解）
4	一般教養演習（薬物依存症の理解）
5	一般教養演習（共通科目について）
6	一般教養演習（専門科目について）
7	共通科目演習
8	共通科目演習

●成績評価のしかた

評価は授業時間に課す課題、提出物、授業への取り組み姿勢などにより総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

１年次から国家試験が実際にどのような問題が出題されているのか理解し、少しずつ問題の解き方に慣れていきましょう。

カウンセリングの実際　（全３０回）	精神保健福祉科	１年	通年
	担当教員	吉　川　　暢	

●授業概要

★この授業のねらい

　カウンセリングには様々な定義がありますが、言語を中心としたコミュニケーションを通じて、心理的・精神的な不調にある人を支援する技術のこと、と言ってよいでしょう。
　日常生活の中でも、誰かとじっくり話をすることで元気になれた経験は決して珍しいものではないと思います。
　ですが、全てのコミュニケーションが人を元気づけるわけではありません。逆に元気がなくなってしまうコミュニケーションもあります。それらの違いはどこから来るのか、実際の体験を通じて学んでもらいます。
　また、カウンセリングは自分自身を一種の道具として使うため、自分自身の特性を知っておくことも必要です。そのためのワークも体験し、理解してもらいます。

★仕上がり像

1　自分自身のコミュニケーションの特性を把握し、述べることができる。
2　カウンセリングの基礎知識を習得し、説明することができる。
3　実際の面接場面で適切にふるまうことができる。
4　面接を行った結果得られたことを、情報としてまとめ、報告できる。

●授業内容

1	コミュニケーションの難しさ	16	聞き手の態度
2	受信チャネルの検討	17	感情の指摘
3	パーソナルスペースの体験	18	くり返し
4	２０答法	19	明確化
5	感情・記憶の図示	20	質問の仕方
6	簡易文章完成法	21	スケーリング
7	簡易自由連想法	22	どんな言葉を返すか
8	主語の言い換え、感情表現の図示	23	返す言葉とクライアントの感情
9	文章の書き換え、早期回想法	24	初回面接で聞くこと
10	原因帰属	25	ジェノグラム
11	ブレーンストーミング	26	否定的な考え方と肯定的な考え方
12	イメージによる変化	27	直面化
13	話の聞き方（態度の工夫）	28	沈黙への対処
14	話の聞き方（位置関係の工夫）	29	総合練習
15	フィードバック	30	まとめ

●成績評価のしかた

授業ごとに提出するレポート、授業への取り組み姿勢、最終レポートを総合して評価します。

●教科書・参考図書

必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

様々な実習を行います。
上手にできないことは問題ありません。出来る範囲で、真剣に取り組んでください。

情報と医療福祉Ⅰ　　（全１５回）	精神保健福祉科	１年	後期
	担当教員	石井　孝　・　酒井　啓	

●授業概要

★この授業のねらい

現在の医療福祉分野では，従来の医学、福祉の技術のみならず急速な発展を遂げているＩＴ技術などの科学技術によって支えられています。この授業ではパソコンで広く利用されている日本語ワープロの操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能の基礎を身に付けます。

また、医療分野、福祉分野において情報（ＩＴ）がどのように活用されているかを学びます。

★仕上がり像

1　初めての人でもパソコンを操作することができる。
2　Micorosoft Wordを使いこなすことができる。
3　職場でパソコンを利用し，医療福祉の業務に役立たせることができる。
4　実際の現場での活用方法について身につけることができる。

●授業内容

1	Windows10の基礎		
2	Word2019の基礎		
3	文章の入力、保存、編集、印刷		
4	体裁を整えた文書の作成（編集機能）		
5	入力速度測定，文書作成演習		
6	表の作成と編集		
7	ビジュアルな文書の作成（画像の利用・他）		
8	ビジュアルな文書の作成（図形描画・他）		
9	段組み・ドロップキャップ・ページ罫線		
10	行事の企画書作成		
11	行事のポスター作成（レイアウトを考える）		
12	行事のポスター作成（完成）		
13	行事の内容について発表		
14	行事の内容について発表		
15	Word2019の総合演習		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（Micorosoft Wordの操作）と提出課題などを総合して評価します。

●教科書・参考図書

教科書：実教出版企画開発部編集「Windows10対応 30時間でマスター Word2019」（実教出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

興味を持ち積極的に授業を受けましょう。また、授業以外でも多目的室の空き時間を利用し、早く正確にキーボードが打てるように、入力練習なども心がけましょう。

医療・福祉分野の現場においてもＩＴ化が進んでいます。パソコンを活用するための基礎技術を身に付けましょう。

記録の基礎と活用　　（全１５回）	精神保健福祉科	１年	前期
	担当教員	石　川　央　弥	

●授業概要

★この授業のねらい

　ソーシャルワーカーの記録は業務の根拠や証拠になるもので適切に記録することが求められています。記録は患者を取り巻く環境について気づきを得たり、疑問に気づくことができます。本授業では国語の基礎力を養い、適切に記録する能力を身に付けます。また、観察したものを適切な言葉で表現し、相手に伝わる文章を構成し作成できることを目指します。

★仕上がり像

1　自分の考えや状況、状態を整理できる。
2　相手に伝わる表現ができる。
3　相手に伝わる文章が書くことができる。

●授業内容

1	記録の意義と種類		
2	文法の基礎と文章の構成		
3	状態や行動の観察		
4	状態や行動の表現方法		
5	状態や行動の表現の実際		
6	状況の観察		
7	状況の表現方法		
8	状況の表現の実際		
9	考察の整理や表現の方法		
10	考察の表現の実際		
11	面接記録の方法		
12	面接記録の実際		
13	実習日誌の意義		
14	実習日誌の実際		
15	まとめ		

●成績評価のしかた

レポート、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

本授業では国語の基礎力が求められます。文法や言葉の意味について意識するよう心がけ、文章力を身に付けていきましょう。

接遇マナーⅠ　（全８回）	精神保健福祉科	１年	前期
	担当教員	坪　崎　美 佐 緒	

●授業概要

★この授業のねらい

臨床の場面において「あなたにお願いしたい」と信頼されるにはマナーは必要不可欠です。なぜならば、　仕事をしていくうえで、利用者やクライアントはもちろんのこと、職場の上司、同僚など様々な人と円滑な人間関係を築いてこそ信頼されるからです。マナーの基本である、あいさつや言葉遣い、動作、姿勢、一般知識などを講義・実習を通して学びます。

★仕上がり像

１　好感を与える基本的なマナーを身に付け、実践することができる。
２　ＴＰＯ（時間・場所・状況）に応じて、敬語を遣い分けることができる。
３　人と接する際に必要な基本的マナーを身に付け、実践することができる。

●授業内容

1	みだしなみと挨拶（お辞儀・態度）		
2	社会人としての初歩的知識		
3	表現マナー（敬語、会話のマナー）		
4	表現マナー（電話応対）		
5	表現マナー（文書）		
6	接客マナー		
7	冠婚葬祭・食事のマナー		
8	まとめ		

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、グループワークへの積極性、発表や発言の質・量などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書　マナー&プロトコールの基礎知識　（ＮＰＯ法人日本マナープロトコール協会）
教科書　古谷　治子　「仕事の基本が身に付く本」　（かんき出版）
プリント教材を配布して使用します。パワーポイントを使用します。

●履修へのアドバイス

社会人として必要な基本的なマナーを身に付けることは、職場だけでなく様々な場面で役立ちます。マナーを身に付けて、自分自身のブラッシュアップをしましょう。

2019年　精神保健福祉科2年　履修科目一覧

科目名	形式	2年次		合計
		前期	後期	
相談援助の理論と方法Ⅱ	講義	30	30	60
社会保障	講義	30	30	60
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	30		30
低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	30		30
就労支援サービス	講義		15	15
更生保護制度	講義		15	15
保健体育・レクリエーションⅡ	演習	30		30
介護概論	講義	30	30	60
相談援助演習Ⅱ	演習	40	30	70
相談援助実習指導Ⅱ	演習	40	20	60
相談援助実習Ⅱ	実習		184	184
精神疾患とその治療	講義	30	30	60
精神保健の課題と支援	講義	30	30	60
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	講義		30	30
精神障害者の生活支援システム	講義		30	30
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	演習		30	30
社会・精神福祉総論Ⅱ	講義	20	10	30
介護技術	演習	30		30

相談援助の理論と方法Ⅱ　（全３０回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	石　山　有　紀	

●授業概要

★この授業のねらい

社会福祉における相談援助職は多様な課題を持つ利用者に対して、さまざまな手法で対応していかなければなりません。そのために、社会資源の活用方法、アプローチの方法、ケースマネジメント、ネットワーキングなどさまざまな技術を用いることになります。このようなさまざまな相談技術について理解します。

★仕上がり像

1　ケースマネジメント、ネットワーキングについて説明することができる。
2　相談援助における社会資源の活用、調整、開発などが説明することができる。
3　個別の状況に応じた適切な支援を行うために、実践アプローチの特徴を把握し、実践への適用の仕方について説明することができる。

●授業内容

1	相談援助における対象の理解	16	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ（問題解決アプローチ、課題中心アプローチ）
2	ケースマネジメントの基本・過程	17	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ（危機介入アプローチ、行動変容アプローチ）
3	ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴	18	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ（エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ）
4	ケアプランの作成・実施の特徴	19	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ（その他の実践アプローチと課題）
5	ケースマネジメントとソーシャルワークの関係	20	スーパービジョンの意義と目的
6	グループを活用した相談援助	21	スーパービジョンの方法と留意点
7	自助グループを活用した相談援助	22	コンサルテーション
8	コーディネーションの目的と意義、留意点	23	ケースカンファレンスの意義と目的、運営と展開過程
9	ネットワーキングの意義と目的	24	ケースカンファレンスの実際と評価
10	地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化	25	相談援助における個人情報の保護
11	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的、留意点	26	相談援助における情報通信技術（ICT）の活用
12	ソーシャルアクションによるシステムづくり	27	事例研究の目的と意義と留意点
13	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ（実践モデルとその意味）	28	事例分析の目的と意義と留意点
14	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ（治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル、ジェネラリストソーシャルワーク）	29	相談援助の実際
15	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ）	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験　（３１回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価する。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新社会福祉士養成講座　第８巻　相談援助の理論と方法Ⅱ」（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

相談援助職が相談援助を実施する際に、ケースマネジメントやネットワーキングの必要性が求められており、その特徴や理念を理解することは重要になります。また、中心となる実践モデルやアプローチについては一つ一つ理解し考えを深めてほしいです。

社会保障　　（全３０回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	髙　橋　銀　司	

●授業概要

★この授業のねらい

みなさんは、１年次に学習した権利擁護や社会資源の活用について覚えていますか。ソーシャルワーカーの重要な役割の一つは、利用者が望む支援をつなげることです。この授業ではより大きな社会保障という枠組みで社会資源について概説します。同時に、実務的なレベルでも使える各種制度の知識を習得することを目的とします。

★仕上がり像

社会保障の理念と機能の全体像をつかみ、年金制度、介護保険制度、社会福祉制度等について実務的な知識を習得し説明することができる。

●授業内容

1	現代社会と社会保障（私たちの生活との関係）	16	医療保険制度（健康保険と共済制度）
2	現代社会と社会保障（理念と機能）	17	医療保険制度（国民健康保険制度）
3	社会保障の歴史（欧米における歴史的展開）	18	医療保険制度（後期高齢者医療制度）
4	社会保障の歴史（日本における歴史的展開）	19	介護保険制度（創設の経緯）
5	社会保障の構造（体系、仕組、機能など）	20	介護保険制度（制度の概要、最近の動向）
6	社会保障の構造（社会保険の構造）	21	労働保険制度（沿革と概要、労災保険）
7	社会保障の構造（社会扶助の構造）	22	労働保険制度（雇用保険、最近の動向）
8	社会保障の財源と費用（費用について）	23	社会福祉制度（沿革と概要）
9	社会保障の財源と費用（財源について）	24	社会福祉制度（生活保護制度、公的扶助）
10	社会保障の財源と費用（経済との関係）	25	社会福祉制度（児童福祉）
11	年金保険制度（沿革と概要）	26	社会福祉制度（障害者福祉）
12	年金保険制度（国民年金）	27	社会福祉制度（ひとり親家庭、高齢者など）
13	年金保険制度（厚生年金保険、共済年金）	28	社会保障と民間保険
14	年金保険制度（最近の動向）	29	社会保障が当面する課題
15	医療保険制度（沿革と概要）	30	諸外国における社会保障制度
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（31回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価する。

●教科書・参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会編集　「新社会福祉士養成講座　第１2巻　社会保障」
（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

基本的な社会保障体系を踏まえつつも、日ごろから新聞の政治・社会面に目を通して時事問題に関心を持つ習慣と読解力を身に付けましょう。そして、その記事に対する自分自身の考察や感想を書きつけておくと、さらに自分の知識へと発展していきます。

児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度Ⅰ　（全１５回）	精神保健福祉科	２年	前期
	担当教員	大　場　信　一	

●授業概要

★この授業のねらい

近年、家族形態が変化し、それに伴って家族のもつ意味や家族の役割・機能も変化してきています。これらの変化は、人々の生活のあり方や意識にも影響を与え、血縁関係や地域社会における相互支援体制を弱体化させ、今日的社会問題とされている様々な現象を顕在化させています。授業は、そうした変化の動向やその背景について学習するとともに、児童・家庭福祉の基礎構造としての法・制度や理念について学習し、各論としての「児童・家庭福祉制度Ⅱ」へつなげていきます。

★仕上がり像

1　子ども・家庭をめぐる変化とその社会的背景について説明することができる。
2　子ども・家庭福祉の基盤について説明することができる。

●授業内容

1	児童・家庭支援と福祉制度についての概要		
2	現代社会と子ども家庭（少子高齢社会の推移）		
3	現代社会と子ども家庭（生活困窮と子どもの貧困）		
4	現代社会と子ども家庭（現代社会の価値観との関連）		
5	児童虐待とは何か（背景と実態）		
6	児童虐待への対応		
7	子ども・児童・家庭とは何か		
8	子どもと家庭の権利保障		
9	児童福祉の発展（日本の歴史的変遷）		
10	児童福祉の発展（欧米の歴史的変遷）		
11	子ども家庭福祉にかかわる法制度		
12	子ども家庭福祉にかかわる法制度（児童福祉関連法）と実施体制		
13	子ども家庭福祉にかかわる法制度　（児童福祉施設）		
14	子ども家庭福祉の専門職		
15	児童の社会的養護サービス		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編
「新・社会福祉士養成講座　第１５巻　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」
（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

前もって教科書の該当箇所を読んでおいて下さい。授業で配布した資料は、授業のあとでよく読み、社会福祉は時事的要素が強い領域であるので、新聞・テレビ等の報道に注意を向けるよう心がけ、情報や資料を収集・整理し、授業と関連づけながら学習することが望ましいです。

低所得者に対する支援と生活保護制度 （全１５回）	精神保健福祉科	２年	前期
	担当教員	飯　島　英　幸	

●授業概要

★この授業のねらい

市民生活を守る社会保障・社会福祉制度のセーフティネットとして位置づけられている生活保護制度の歴史や全体像を理解するとともに、実践で活かせるように制度の知識や仕組みについて学習します。また、貧困・低所得の問題は社会のさまざまな問題が絡んでいることがあります。生活保護を受給されている方を取り巻く環境や生活の実情にも目を向け、生活保護制度を利用した支援のあり方についても理解を深めていきます。

★仕上がり像

1　生活保護制度の概念、仕組み、基準など、その全体像について述べることができる。
2　現在の貧困問題などを通し、低所得対策の動向や支援について説明することができる。

●授業内容

1	公的扶助の概念
2	貧困・低所得者問題と社会的排除
3	公的扶助制度の歴史（海外の歴史）
4	公的扶助制度の歴史（日本の歴史、貧困・低所得者対策の近年の動向）
5	生活保護法の目的と原理、原則
6	保護の種類と内容および方法
7	被保護者の権利及び義務
8	最低生活保障水準の考え方
9	生活保護基準の考え方
10	生活保護の動向
11	低所得者対策の概要
12	生活保護の運営実施体制と関係機関・団体
13	貧困・低所得者に対する相談援助活動
14	生活保護における自立支援
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験　（１６回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新社会福祉士養成講座　第１６巻　低所得者に対する支援と生活保護制度」
（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

生活保護は難しい語句や独特な表現や言い回しがあります。生活保護のＱ＆Ａや体験記、事例集などが書かれた文献を参考にすると理解しやすくなります。また、貧困問題はニュースや新聞にも目を向けると勉強の視野が広がります。

就労支援サービス　（全８回）	精神保健福祉科	２年	後期
	担当教員	森　本　俊　二	

●授業概要

★この授業のねらい

近年、社会保障・社会福祉の分野において自立支援という概念が重視されるようになりましたが、とりわけ障害者、低所得者、母子世帯、フリーター等への自立支援の有力な手段の一つとして就労支援があげられます。特に、近年の雇用状況の悪化のなかで、当事者への相談援助や就労支援システムの構築など、社会福祉士、精神保健福祉士に求められる役割が大きくなっています。この授業では相談援助活動において必要とされる各種の就労支援サービス及び就労支援に関わる組織、団体などの役割について理解するとともに、それらのネットワークの現状と課題について学びます。

★仕上がり像

1　相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解し、説明することができる。
2　就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割について理解し、述べることができる。
3　就労支援における様々な関係機関、専門職との連携について理解し、実践することができる。

●授業内容

1	働くことの意味と精神保健福祉士の役割　現代の労働を取り巻く状況
2	労働に関する法律と制度
3	障害者と就労支援　障害者福祉施策における就労支援制度，施策
4	障害者と就労支援　障害者雇用施策における就労支援の実際
5	生活保護と就労支援
6	低所得者と就労支援
7	連携・ネットワーキング
8	さまざまな働き方の支援
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験・授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新社会福祉士養成講座　第１８巻　就労支援サービス」（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

テキストからの学習だけではなく、新聞記事などにも目を通すなど、社会の動きに対して積極的に関心を持って学習に取り組んでください。

更生保護制度　（全８回）	精神保健福祉科	２年	後期
	担当教員	佐　藤　珠　美	

●授業概要

★この授業のねらい

近年の犯罪の動向によると、新受刑者で知的障害を疑われる者が３割を占めていること、児童虐待等の検挙数の増加していること、刑法犯検挙人員のうち７０歳以上の占める割合が顕著に増加していることが明らかになっています。これらの傾向から、犯罪・非行した者の多くが福祉的支援を必要とする背景がうかがえます。共生社会の実現に向けて、更生保護制度における福祉的支援の理解を通して「排除のない社会」における社会福祉士の役割について学びます。

★仕上がり像

１　我が国における刑法犯の動向とその背景、犯罪者処遇について理解し、説明できる。
２　犯罪者処遇における更生保護制度の現状と課題について説明することができる。
３　犯罪・非行した者に対する福祉的支援の介入・継続・発展について理解し、説明できる。

●授業内容

1	刑法犯の動向、非行・犯罪臨床の概要
2	更生保護制度の概要（更生保護とその位置づけ、仮釈放等）
3	更生保護制度の概要（保護観察、更生緊急保護、犯罪被害者等施策・犯罪予防活動）
4	更生保護制度の担い手
5	更生保護制度における関係機関・団体との連携
6	医療観察制度の概要
7	更生保護にかかる業務の実際
8	更生保護の今後の展望、全体のまとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等を重視した上で、定期試験をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新社会福祉士養成講座 第２０巻 更生保護制度」（中央法規出版）

参考図書：法務省法務総合研究所編　平成３０年度版　犯罪白書（日経印刷）
国家公安委員会・警察庁編　平成３０年度版　犯罪被害者白書（日経印刷）

その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

犯罪や非行は許されることではありません。しかし、その多くの者は身体的・精神心理的・社会的な問題による「生きづらさ」を抱えているという背景を理解することが、社会内処遇と呼ばれる「更生保護」には求められます。なぜ、社会的弱者の再犯が減少しないのか、福祉的視点を活かして積極的に考えていきましょう。

保健体育・レクリェーションⅡ （全１５回）	精神保健福祉科	２年	前期
	担当教員	伊　東　祥　次	

●授業概要

★この授業のねらい

スポーツを通して心と体の健康づくりを目指すと共に、レクリェーションの展開技術を習得し、人とのつながりの大切さを学びます。

★仕上がり像

1　各種目の実技を通して、心身の健康づくりを体得することができる。
2　レクリェーションによって得られる心の豊かさを実感し、職場で実践することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション　からだほぐし運動（ストレッチング：個人、パートナーストレッチング）
2	からだほぐし運動（いろいろな動作を取り入れた運動・とびなわ運動）
3	バスケットボール～基本技術の練習（パス・ドリブル）・ゲーム
4	バスケットボール～基本技術の練習（シュート）・ゲーム
5	バスケットボール～ゲーム
6	バスケットボール～ゲーム
7	バレーボール～基本技術の練習（パス・サーブ）ゲーム（ソフトバレー）
8	バレーボール～基本技術の練習（パス・サーブ・スパイク）ゲーム
9	バレーボール～ゲーム
10	バレーボール～ゲーム
11	バドミントン～ストローク練習　ダブルスゲーム
12	バドミントン～ストローク練習　ダブルスゲーム
13	フットサル　～パス練習とゲーム
14	レクリェーションスポーツ
15	レクリェーションスポーツ

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、技能テストにより総合評価します。

●教科書・参考図書

自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

1　運動しやすいジャージやＴシャツを着用してください。
2　靴は滑りにくいスポーツシューズを履いてください。
3　タオルやドリンク等暑さ対策をしてください。
4　身体を動かすことに積極的に取り組みましょう。

介護概論　（全３０回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	田　中　真　智　子	

●授業概要

★この授業のねらい

講義や演習を通して介護の本質を理解し、医療・福祉・介護のフォーマルサービスと地域のインフォーマルサービスを調整し、地域で暮らすことを支援することは重要なことであり、学習を通して介護の目的や介護職員、他職種との連携について学んでいきます。

介護過程の基本視点を学び、介護過程の一連のプロセスを通じて知識や経験の積み重ね、専門性を高めていくことの重要性を理解します。

★仕上がり像

1　介護の基本について説明することができる。
2　介護に関する演習を行うことでソーシャルワーク実践に生かすことができる。

●授業内容

1	介護とは:目的、考え方、歴史	16	介護過程とは
2	介護とケア（介護福祉とは）	17	介護過程の意義と目的
3	介護とケア（職業倫理）	18	問題解決過程
4	QOL向上の自立支援	19	近隣地域で用いられている諸理論
5	リハビリテーションとノーマライゼーション	20	看護領域と社会福祉領域
6	介護福祉士の役割と機能	21	介護福祉士とチームアプローチ
7	生活の視点とライフサイクル	22	介護における情報について
8	生活福祉とICF	23	介護における観察について
9	要介護者を支える生活支援技術	24	介護過程の展開（アセスメント・計画立案）
10	身体拘束と虐待	25	介護過程の展開（実施・評価）
11	リスクマネジメントと介護事故	26	介護過程展開シートの活用
12	事故を防ぐための安全な介護	27	各シートの使い方
13	介護事例検討（アセスメント）	28	事例による介護過程の学習（情報活用）
14	介護事例検討（情報分析）	29	事例による介護過程の学習（演習展開）
15	中間まとめ	30	全体のまとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

３１回目で定期試験を実施。
評価は定期試験、提出物、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：日本介護福祉士養成施設協会、川井太加子、野中かすみ編
「介護の基本／介護過程（介護福祉士養成テキスト）」　（法律文化社）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

講義・演習・事例検討・グループワークなど様々な方法で授業展開をします。

相談援助演習Ⅱ　（全３５回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	小　川　香　織	

●授業概要

★この授業のねらい

この授業の狙いは、相談援助演習Ⅰで学習した内容の発展と、集団支援・地域支援の基本的な理解であります。面接技術や、援助過程における注意点等を、体験学習を通し、ソーシャルワーカーとしての力を身に付けます。

★仕上がり像

1　利用者の抱える問題とその背景に対しソーシャルワーク技術を駆使し介入することができる。
2　社会福祉援助の展開過程の観点に立った援助計画を立て、実践し、それを評価することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション：何を学習するのか	19	グループワーク実践の設定
2	専門職による相談援助とは	20	プログラムの分析と立案
3	面接におけるコミュニケーション（面接過程）	21	グループワークの援助計画
4	面接におけるコミュニケーション（面接技術）	22	グループワークの過程（重要）
5	面接におけるコミュニケーション（さまざまな場面）	23	グループワークの過程（原則）
6	面接におけるコミュニケーション（特殊な面接）	24	グループワークの過程（実施の過程）
7	インテーク	25	グループワークの過程（ロールプレイ）
8	アウトリーチ（重要性）	26	グループワークの過程（評価）
9	アウトリーチ（実際の施策）	27	実習を通した事例（実際の事例から）
10	施設運営のあり方	28	実習を通した事例（困難事例）
11	当事者の視点から	29	地域を知る
12	意思決定支援	30	地域住民の理解
13	アセスメント（全体の流れ）	31	地域ニーズへの取り組み
14	アセスメント（評価のニーズ）	32	ネットワーキング
15	エコマップ	33	地域援助の展開
16	マッピングからプランニングへ	34	ボランティア・コーディネーション
17	記録（ニーズの把握・プラン作成）	35	まとめ
18	施設利用者と実習生のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		

●成績評価のしかた

提出物・ 授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

グループワーク・ロールプレイを行う際には積極的な姿勢で取り組んでください。

相談援助実習指導Ⅱ　（全３０回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

相談援助実習は教育現場と実践現場を結ぶ「場」として、また社会福祉を総合的に学ぶ「場」として、設定されています。実習効果が上がるためには、これまで学んだ理論の定着や社会福祉専門職としての自覚が必要であります。そのためには、事前学習でこれまでの学習を復習し、各自が配属実習先の情報収集に努め、実習中は意欲的に現場理解に努め、実習後は報告書の作成や発表を通して、実習の意義と成果を振り返り、社会福祉の知識・理論と実習が一体的な体験となることを目指します。

★仕上がり像

1　相談援助実習の準備に備えることができる。
2　現場でのソーシャルワーカーの業務や役割について実習・事例を通して説明することができる。
3　報告書を作成する力、発表する力を身に付け、実践することができる。

●授業内容

1	今年度の相談援助実習先について	16	実習計画書作成（目標達成の計画立案）
2	実習施設・機関の選択	17	実習計画書作成（完成）
3	社会福祉施設見学	18	実習に向けての心構え
4	社会福祉施設見学	19	実習を振り返って
5	自己コンピテンス	20	実習報告書作成の方法と実施
6	自己コンピテンス　フィードバック	21	実習報告書作成（実習先基本情報について）
7	スーパービジョン関係	22	実習報告書作成（実習で学んだこと）
8	配属実習中の指導・実習中の各種課題	23	実習報告書作成（実習から見えてきた課題について）
9	実習事例の学習（利用者の理解をすすめる）	24	実習報告書作成（全体の見直し）
10	実習事例の学習（信頼関係を考える）	25	実習報告書作成（完成）
11	実習事例の学習（生活場面面接を考える）	26	実習報告会に向けて
12	実習事例の学習（アセスメントをしてみよう）	27	実習報告会
13	実習計画書作成（目標設定の検討）	28	実習報告会
14	実習計画書作成（目標設定の決定）	29	実習報告会
15	実習計画書作成（目標達成ための計画検討）	30	実習報告会

●成績評価のしかた

提出物・授業への取り組み姿勢・実習計画書・実習報告書・実習報告会などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

本科目は相談援助実習において積極的に利用者と関われるように、利用者理解などの事例検討を実施したり、施設見学も行う際には積極的な姿勢で取り組んでください。また、相談援助実習終了後から実習報告会まで限られた日数となるため、計画的に実習報告書や実習報告会の準備をしてください。

相談援助実習Ⅱ （全１８４時間）	精神保健福祉科	２年	後期
	担当教員	各施設実習指導担当者 佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

相談援助実習Ⅱは、これまで講義や演習等で学んだ知識・技術を実際の福祉現場で活用し、理解を一層深めるとともに、社会福祉の各種施設サービスを利用している児童から高齢者まで、また障害者等と直接かかわることにより、将来、ソーシャルワーカーとして福祉専門職を目指す自己の資質を高めていきます。

★仕上がり像

1　種々のコミュニケーション技法を用いて利用者や家族の抱える問題点を的確に把握し、実践することができる。
2　それぞれの実習施設等における社会福祉士の役割や他職種との連携について理解し、説明することができる。
3　社会福祉援助技術の基本的な知識・技術を活用して相談援助ができる。

●授業内容

第１週
実習機関の理解、実習機関の各部門・職種の理解
１日の業務の流れの把握
対象者とのコミュニケーションなど

第２週
社会福祉士の役割・特性の理解
対象者との信頼関係の構築など

第３週
面接方法と技術の理解
インテーク、アセスメントの理解
プランニングの方法を学ぶ
対象者との信頼関係の構築など

第４週
プランニングの方法を学ぶ
評価及びモニタリングの理解
実際の介入について学ぶ
地域関係機関との連携の理解など

第５週
振り返り

●成績評価のしかた

実習施設の評価、実習巡回時の状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

５週間という初めて長期間の実習となり、実習指導者や実習計画書、利用者等多くの方と関わることになり、実習生という立場を忘れずに取り組んでください。また、実習中に知り得た個人情報については守秘義務と個人情報保護法を順守してください。

精神疾患とその治療　　（全３０回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	大宮司　信　・　吉川　暢	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健の分野で初学者が陥りがちな間違いに、すべての事象を心因、つまり、心の中で起きたことに原因を求めてしまうという態度があります。もちろんまったく無関係であるわけではないのですが、すべてをそこに帰してしまうのは大きな間違いです。精神の働きには様々な要因があり、複雑に絡み合っています。すべてを解き明かすことはもちろんできませんが、基本的な関係までは理解しておくべきでしょう。

また、精神保健の実践において、当人あるいは家族に対して、何が起きているのか、何にどう気をつけて暮らしていく必要があるかを説明しなければならない機会があります。その時にも精神医学の知識は大いに役立つでしょう。

★仕上がり像

1　精神医学の概要を説明することができる。
2　精神医学的な見方、考え方ができる。
3　国家試験の問題に答えることができる。

●授業内容

1	精神医療の歴史	16	代表的な精神障害（解離性障害）
2	脳、神経の生理	17	代表的な精神障害(心理的発達の障害)
3	大脳、末梢神経系	18	代表的な精神障（行動と情緒）
4	精神医学の概念	19	代表的な精神障害（知的障害）
5	診断法（診断の手順と方法）	20	代表的な精神障害（行動症候群）
6	診断法（精神症状と状態像）	21	代表的な精神障害（人格障害）
7	診断法（身体検査と心理検査）	22	代表的な精神障害（神経系）
8	代表的な精神障害（統合失調症）	23	代表的な精神障害（てんかん）
9	代表的な精神障害（気分障害）	24	治療法（身体・薬物療法）
10	代表的な精神障害（物質関連）	25	治療法（来談者中心療法ほか）
11	代表的な精神障害（摂食障害）	26	治療法（SST、遊戯療法ほか）
12	代表的な精神障害（不安障害）	27	治療法（集団療法）
13	代表的な精神障害（解離性障害）	28	治療法（環境・社会療法）
14	代表的な精神障害（器質性障害）	29	病院・地域精神科医療
15	代表的な精神障害（神経症関連）	30	人権擁護、司法精神医学
			定期試験

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、定期試験などを総合して評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集
　　精神医学－精神疾患とその治療　（へるす出版）
必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

独特な用語が頻出するので、定義や意味をきちんとおさえましょう。

症状だけではなく、疾患の中心となるイメージを把握すると理解しやすくなります。

精神保健の課題と支援　（全３０回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	福　島　令　佳	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健学とは、広義には精神的健康の保持と増進を目的とする諸活動であり、狭義には精神疾患の予防、治療、リハビリテーションに及びます。より具体的な内容としては精神の健康、ライフサイクル、精神保健と家族・学校教育・就労関係、また、精神保健に関する各論（アルコール・薬物依存症、ホームレス、ひきこもり、ターミナルケア等）、さらに地域精神保健、諸外国の精神保健活動と多岐にわたります。これらを通して精神の健康の重要性を理解することが本講義の目指すところです。

★仕上がり像

1　ライフサイクルごとの特徴について説明できる。
2　精神保健における重要課題である発達障害、アルコール・薬物関連問題、うつ病・自殺対策、認知症、ひきこもり、災害対策、ターミナル・ケア等について説明できる。
3　地域精神保健施策の流れや関連法規について説明できる。
4　諸外国における精神保健の概要を説明できる。
5　上記を通して精神の健康について説明できる。

●授業内容

1	精神保健の概要と課題	16	前期のまとめ
2	新しい健康観	17	危機の受容（プロセス）
3	ライフサイクル（愛着の絆とは）	18	危機の受容（事例）
4	ライフサイクル（愛着形成期）	19	ターミナルケアと精神保健
5	ライフサイクル（青年・壮年・中年・老年期）	20	病気療養・介護・高齢、認知症高齢者と精神保健
6	発達障害と精神保健（概要）	21	心身症と生活習慣病
7	発達障害と精神保健（生きづらさの社会的背景）	22	薬物、アルコールやギャンブルに関する問題
8	発達障害と精神保健（生きづらさの実際）	23	家族の問題と精神保健
9	性別違和（現状）	24	学校教育と教員、生徒・児童の精神保健
10	性別違和（生きづらさの実際）	25	現代日本の労働環境・うつ病・過労自殺と対策
11	多文化と精神保健	26	犯罪被害者の精神保健
12	ホームレスおよび貧困問題と精神保健	27	災害時の精神保健
13	ニート、熟年無業者と精神保健	28	地域精神保健
14	社会的ひきこもりと精神保健（社会的背景）	29	諸外国の精神保健活動の現状および対策
15	社会的ひきこもりと精神保健（事例）	30	全体の総括
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験と授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価する。

日本精神保健福祉士養成校協会編集
「新・精神保健福祉士養成講座第２巻　　精神保健の課題と支援」　（中央法規出版社）

●履修へのアドバイス

精神の健康、ライフサイクル、精神保健と家族・学校教育・就労関係、アルコール・薬物依存症、ホームレス、ひきこもり、ターミナルケア等の精神保健活動は多岐にわたります。さらに、それに関連する法制度は社会情勢を受けて刻々と変化するため、新聞などで関連事項の記事を読む習慣をつけてください。

精神保健福祉相談援助の基盤（専門）　（全１５回）	精神保健福祉科	２年	後期
	担当教員	佐　藤　誉　匡	

●授業概要

★この授業のねらい

近年、精神障害者を対象とする様々な施策が展開されていると同時に、精神保健福祉士の相談援助をめぐる状況においても地域支援の重視や職域の拡大等、大きな変化が生じてきています。本授業では『精神保健福祉士の専門性』を熟知し、『総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術』『医療及び多職種、クライエントと協働、連携する相談援助方法の知識と技術』を習得することを目標とします。

★仕上がり像

1　精神保健福祉士の役割と意義について説明することができる。
2　精神障害者の相談援助に係わる専門職の概念と範囲について説明することができる。
3　精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について説明することができる。
4　精神保健福祉活動における総合、包括的な援助、多職種連携の意義と内容について説明することができる。

●授業内容

1	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク　　精神保健福祉士制度化の歩み ～ 誕生と経緯
2	精神保健福祉士制度化の歩み ～ 活動の広がり、見直し
3	精神保健福祉士の位置づけと専門性
4	個別支援計画
5	精神科医療機関におけるソーシャルワーカーの業務
6	地域生活支援におけるソーシャルワーカーの業務
7	就労支援におけるソーシャルワーカーの業務
8	精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義、現状と今後の展開
9	専門職の概念
10	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務
11	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割
12	専門職倫理と倫理的ジレンマ
13	総合的・包括的な援助を支える理論と、その援助の機能と概要
14	多職種連携・チームアプローチの意義と概要　　多職種連携における精神保健福祉士の役割
15	総合まとめ ～ グループワーク
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質と量、討論への積極性、提出物などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：日本精神保健福祉士養成校協会編集
「新･精神保健福祉士養成講座　第３巻　精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」
（中央法規出版）
参考資料は必要に応じて配布します。

●履修へのアドバイス

１年次に学んだソーシャルワーク全般に求められる知識及び技術に、精神保健福祉領域に特化した専門性を上乗せして学習していきます。精神保健福祉士はスペシフィックな資格であることを熟知し、精神保健福祉士の価値と理念、役割を３年次の精神保健福祉援助実習をイメージしながら学んでいきましょう。

精神障害者の生活支援システム（全１５回）	精神保健福祉科	２年	後期
	担当教員	酒　井　　啓	

●授業概要

★この授業のねらい

精神障害者の地域移行を進めることが出来る精神保健福祉士が求められている。そのため、精神障害者のおかれている現状を学び、自立について考えていきます。また、精神障害者に対しての①居住支援②就労支援③行政における支援を学び、具体的に支援方法を考え計画を立てられる力を付けていきます。

★仕上がり像

1　精神障害者のおかれている現状について、具体的に説明できる。
2　精神障害者を支援するシステム（①居住支援②就業支援③行政における支援）について、現状と制度が説明でき、様々な事例において、支援方法を立てることができる。
3　精神障害者の自立とは何か、自分の考えを述べることができる。

●授業内容

1	精神障害者の概念		
2	関係法規の理解：障害者基本法・精神保健福祉法		
3	精神障害者及び家族の現状		
4	精神障害者と地域		
5	精神障害者の生活と人権		
6	精神障害者の自立と社会参加		
7	精神障害者にとっての就労の意義		
8	ソーシャルサポートネットワーク		
9	地域生活支援システムの実際		
10	精神障害者の居住支援（制度と歴史）		
11	精神障害者の居住支援（支援の実際）		
12	精神障害者の就労支援（制度と歴史）		
13	精神障害者の就労支援（支援の実際）		
14	行政における相談援助		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験　（１６回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性、課題の提出等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

日本精神保健福祉士養成校協会編集
「新・精神保健福祉士養成講座　第７巻　精神障害者の生活支援システム」　（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

これまで学んできた精神保健福祉の知識を基礎に、精神保健福祉士の実習で対象となる方々を実際に支援することを具体的に思い描きながら、一つひとつの理解を深めましょう。また、国家試験の問題に触れる機会を作るので、しっかりと復習をして卒業後を見据え準備していきましょう。

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　（全１５回）	精神保健福祉科	２年	後期
	担当教員	佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

この授業は、これまで学習してきた精神保健福祉に関する専門科目の内容を基盤とし、実習現場である精神科病院・クリニックと障害福祉サービス事業所について学習します。

特に精神障害者や関係機関の置かれている現状、課題を把握し、病院やクリニックと地域事業所の特性や果たす役割、ＰＳＷの業務や倫理綱領、精神障害者の心理や悩みを理解し、社会復帰に向けた取組みなど、精神保健福祉援助の実際を学びます。

★仕上がり像

1　精神保健福祉援助実習の位置づけを理解し、実習の準備に反映することができる。
2　それぞれの実習施設等での精神保健福祉士の役割を説明することができる。
3　それぞれの実習施設等の役割を説明することができる。

●授業内容

1	精神保健福祉援助実習の意義について		
2	医療機関の理解		
3	地域活動支援センターの理解		
4	就労支援事業所の理解		
5	社会生活技能訓練（ＳＳＴ）		
6	社会生活技能訓練（ＳＳＴ）		
7	精神保健福祉援助実習の実習先の理解		
8	病院見学		
9	病院見学		
10	実習先検討（希望調書配布）		
11	実習先検討（希望調書提出）		
12	個人票作成		
13	実習計画書作成（目標検討）		
14	実習計画書作成（目標決定）		
15	まとめ		

●成績評価のしかた

提出物・発表や発言の質・量、討論への積極性等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

３年次の精神保健福祉援助実習の大切な準備の時期となり、医療機関と障害福祉サービス事業所の２ヶ所の実習先へ行くことになるため、偏ることなく勉強していきましょう。

社会・精神福祉総論Ⅱ　（全１５回）	精神保健福祉科	２年	通年
	担当教員	佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉科は、３年間で精神保健福祉士と社会福祉士の国家試験科目を習得します。卒業後、指定施設における相談援助業務に従事し、実務経験１年を有することにより国家試験の受験資格を得られます。２年次では特に国家試験共通科目及び専門科目の小テストにチャレンジした後、解答・解説を通し重要事項を再確認していくことで、在学中から国家試験に合格できる力を身に付けていきます。

★仕上がり像

1　国家試験の小テストを通して国家試験の問題形式に慣れ、正答率をあげることができる。
2　現在の自己の実力を認識することができる。
3　解答・解説を活用し、不得意科目を克服できる。

●授業内容

1	一般教養演習（国家試験に向けて）		
2	精神保健福祉士専門科目演習		
3	精神保健福祉士専門科目演習		
4	社会福祉士専門科目演習		
5	社会福祉士専門科目演習		
6	一般教養演習（不得意科目を知る）		
7	精神保健福祉士専門科目演習		
8	精神保健福祉士専門科目演習		
9	社会福祉士専門科目演習		
10	社会福祉士専門科目演習		
11	一般教養演習（不得意科目に慣れる）		
12	共通科目演習		
13	共通科目演習		
14	共通科目演習		
15	共通科目演習		

●成績評価のしかた

評価は授業時間に課す課題、提出物、小テスト、授業への取り組み姿勢などにより総合評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：各科目教科書、社会福祉用語辞典

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

２年次から国家試験の問題を出来る限り取り組み、得意な科目・苦手な科目を把握し苦手科目を少しでも減らし得意科目を増やしていきましょう。そのためにはどんどん問題を解いていくことをお勧めします。

介護技術　　（全１５回）	精神保健福祉科	２年	前期
	担当教員	田　中　真　智　子	

●授業概要

★この授業のねらい

尊厳を保持し、その人の自立（自律）を尊重し、「その人らしい生活」を支える基本的な考えを講義、実技演習から学んでいきます。実技演習では実践を通し介護技術の原則（根拠・支援方法・留意点）を意識した生活支援技術を習得していきます。

★仕上がり像

1　介護を必要とする人の「こころとからだ」ついて説明することができる。
2　「自立と自律」「自己の選択と決定」「その人らしい質の高い生活」について説明することができる。
3　安全で安楽な根拠ある介護技術を行うことができる。

●授業内容

1	着脱の介護		
2	着脱の介護		
3	食事の介護		
4	食事の介護		
5	排泄の介護		
6	排泄の介護		
7	車いすの介護		
8	車いすの介護		
9	清潔（清拭・部分浴・洗髪）		
10	清潔（清拭・部分浴・洗髪）		
11	清潔（入浴）		
12	清潔（入浴）		
13	ボディメカニクス・ベッドメイキング		
14	ベッドメイキング・体位姿勢変換		
15	実技総復習		

●成績評価のしかた

演習への積極性、安全・安楽な介護技術の質、提出物などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

実技演習では適切な身だしなみ、言葉遣いを意識し、根拠に基づいた基本的な介護技術を身に付けてください。

2019年　精神保健福祉科3年　履修科目一覧

科目名	形式	3年次		合計
		前期	後期	
社会理論と社会システム	講義	30		30
社会調査の基礎	講義		30	30
福祉行財政と福祉計画	講義	30		30
福祉サービスの組織と経営	講義	30	30	60
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義	30		30
権利擁護と成年後見制度	講義	30		30
福祉事務所運営論	講義		30	30
保健体育・レクリエーションⅢ	演習	30		30
経済学	講義		30	30
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	講義	30	30	60
精神保健福祉援助演習	演習	30	30	60
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	演習	60		60
精神保健福祉援助実習	実習	150		150
社会・精神福祉総論Ⅲ	講義	40	35	75
情報と医療福祉Ⅱ	演習	30		30
医事会計	講義		30	30
手話	演習		30	30
接遇マナーⅡ	演習	15		15

社会理論と社会システム　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	木　戸　　調	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉士・社会福祉士には、社会生活を営む上で困難を抱えている人々の生活を支援することが求められます。そうした支援に役立つ具体的技術は、この授業で扱う社会学という学問を学んでも、身に付けることはできません。しかし、社会学を学べば、生活上の困難が生み出される背景をより広い視座から理解することができるようになります。とくに、社会学では、困難が生み出されるメカニズムを、困難を抱える個人の側からではなく、社会の側から明らかにしようとします。この授業では、こうした社会学的なものの見方を身に付けるとともに、社会学の基本的知識を学ぶことで、現代社会についての事実に基づいた正しい理解を形成し、現代社会の問題を解決する基礎的な力を養うことをねらいとします。

★仕上がり像

1　社会学の知見を活用し，人々の生活に影響を与える社会の実態を正確に把握し、説明することができる。
2　社会の実態把握をもとに，問題の所在を自分なりに展望し、説明することができる。
3　その展望に基づき，精神保健福祉士・社会福祉士として取り組むべき課題を見定めることができる。

●授業内容

1	社会学とは		
2	社会システム		
3	法・経済と社会システム		
4	社会変動とはなにか		
5	人口変動からみた社会変動		
6	生活の捉え方		
7	家族		
8	地域		
9	社会的行為		
10	社会的役割		
11	社会集団と組織		
12	社会的ジレンマと社会関係資本		
13	社会問題の捉え方		
14	日本社会と社会問題		
15	共生社会と権利		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験の結果を中心に、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量などを総合的に評価します。
具体的には、定期試験＝70%、授業への取り組み姿勢・発表や発言の質・量＝30%です。

●教科書・参考図書

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会 編
「新・社会福祉士養成講座　第３巻　社会理論と社会システム」（中央法規出版社）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

試験対策としてはどの社会学者がどのような理論や概念を唱えたのかを覚えることが重要です。基本的知識を覚えることは悪しき詰め込み式学習のようでいて、実は、社会学的なものの見方に慣れる早道であります。社会学の言葉はなじみにくいかもしれませんが、授業に参加し、課題をこなすことで徐々に慣れていきましょう。

社会調査の基礎　　（全１５回）	社会福祉科	３年	後期
	担当教員	中　尾　秀　美	

●授業概要

★この授業のねらい

社会福祉士国家試験受験で必要になる専門知識としての社会調査の意義と目的、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、量的・質的調査の方法、福祉現場で必要となる研究論文作成の仕方を理解した上で知識として獲得する。

★仕上がり像

1　専門用語と意味を理解し、説明できる。
2　基本的な研究論文の書き方を理解し、説明できる。

●授業内容

1	社会調査の定義と特徴		
2	社会調査の歴史		
3	社会調査の意義とデータの種類		
4	社会調査を取り巻く状況と統計法		
5	量的調査の種類と特徴		
6	調査票の作成手順と留意点		
7	調査方法の種類とデータ分析の尺度		
8	データの視覚化		
9	変量の関係を表す統計量		
10	質的調査の特徴と調査手法		
11	先行研究の見つけ方、調査の流れ		
12	質的調査の具体的な調査方法		
13	質的調査の調査とインタビューの仕方		
14	分析の種類と手順		
15	発表、報告の仕方と調査における倫理		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み姿勢、話し合いにおける発表・発言の内容や積極性をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書　：社会福祉士養成講座編集委員会

「新・社会福祉士養成講座５　社会調査の基礎　第３版」（中央法規出版）

その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

授業中は、ノートをとって集中して授業を聞き理解してください。また、予習として、次回の授業の範囲を読んできてください。復習として復習シートにも取り組み提出してください。

福祉行財政と福祉計画　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	飯　島　英　幸	

●授業概要

★この授業のねらい

1990年代以降、従来の福祉実践は国が示す方針を前提としてさまざまな支援を行ってきたのに対して、福祉計画の時代においては、市町村を舞台とし住民参加のもとに、福祉計画の枠組みを作成することとなります。これに伴い、福祉専門職には、現場実践における専門性のみならず、計画策定における専門性が求められるようになり、サービスの実施と評価を含む計画全体の運営などについて理解します。

★仕上がり像

1　社会福祉の法体系及び関係法の概要について説明することができる。
2　行財政を含む福祉の制度的な仕組みと計画の意義について説明することができる。

●授業内容

1	福祉行財政と福祉計画（福祉と制度）
2	福祉行財政と福祉計画（福祉の法制度の展開）
3	福祉行財政と福祉計画（福祉計画の概要）
4	福祉行政（行政の骨格、社会福祉と法制度）
5	福祉行政（福祉行政の組織、社会福祉基礎構造）
6	福祉財政
7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割（社会福祉基礎構造改革、相談過程、相談体制）
8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割（地域の相談システム　専門職）
9	福祉計画の目的と意義（福祉計画の目的・意義とは　福祉援助の現場から福祉計画へ）
10	福祉計画の目的と意義（計画のサイクルと福祉援助の現場）
11	福祉計画の理論と技法（福祉計画の基本的視点、福祉計画の過程と留意点）
12	福祉計画の理論と技法（福祉計画におけるニーズ把握、評価、住民参加）
13	福祉計画の実際（福祉計画の事例研究の視点 老人福祉計画・介護保険事業計画、障害者計画・障害福祉計画）
14	福祉計画の実際（次世代育成支援行動計画　地域福祉計画）
15	まとめ
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（１６回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質、討論への積極性等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新社会福祉士養成講座　第１０巻　福祉行財政と福祉計画」（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

福祉専門職は、相談援助の技術の他に法律や制度について熟知しておかなければなりません。また、自治体が作成する福祉計画に福祉専門職が参画することが求められており、福祉行財政の知識を得て計画策定における専門性について習得していきましょう。

福祉サービスの組織と経営　（全３０回）	精神保健福祉科	３年	通年
	担当教員	福　島　令　佳	

●授業概要

★この授業のねらい

措置から契約への移行により、福祉領域にも「経営」の視点が求められることもあります。経済優先の経営とは異なりますが、福祉に生かせる要素があります。また、ソーシャルワーカーの労働環境を改善していくための組織のあり方について学びます。

★仕上がり像

1　福祉サービスの経営について、各種キーワードを具体的に説明できる。
2　誇りを持って、安心して働ける労働環境を提供する組織について具体的にビジョンを持って説明できる。

●授業内容

1	福祉サービスとは	16	サービス評価の全体像
2	福祉サービスと制度	17	苦情対応とリスクマネジメント
3	法人とは	18	サービス提供のあり方の方向性
4	社会福祉法人	19	人事
5	特定非営利活動法人	20	労務管理
6	その他の組織や団体	21	人材確保
7	戦略	22	人材育成
8	事業計画	23	会計管理
9	組織	24	財務管理
10	管理運営の基礎理論	25	会計制度
11	集団の力学に関する基礎理論	26	高度情報社会
12	リーダーシップに関する基礎理論	27	情報管理
13	サービスマネジメント	28	戦略的広報
14	サービスの評価	29	パブリック・リレーションズ
15	サービスの質	30	第三者評価制度
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（31回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性などをもとに総合的に評価する。

●教科書・参考図書

社会福祉士養成講座編集委員会編集「新社会福祉士養成講座　第11巻　福祉サービスの組織と経営」（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

経営者もしくはリーダーの視点に立って、いかにして組織をマネジメントしていくかを具体的に考えていきます。バイト先の経験など、常日頃から、組織の上に立つ人間がどのような言動をしているのか観察し、理論と結び付けてみましょう。

児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度Ⅱ　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	牧　田　俊　樹	

●授業概要

★この授業のねらい

近年、家族形態が変化し、それに伴い家庭・家族のもつ意味や役割・機能も変化してきています。これらの変化は、人々の生活のあり方や意識にも影響を与え、血縁関係や地域社会における相互支援体制を弱体化させ、今日社会問題とされているさまざまな現象を顕在化させています。授業は、２年次の「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ」で学習した知識を基礎として、「個人－家庭（家族）－社会」の相互作用の観点から上述の変化や問題、社会福祉の法・制度とその改正の状況を捉えなおし、更に社会福祉援助者としての役割や援助の視点を考察することをねらいとします。

★仕上がり像

1　家庭（家族）の役割・機能の変化を「個人－家庭（家族）－社会」の相互作用の観点から説明できる。
2　家庭を基盤として発生するさまざまな領域の社会福祉問題を同様の視点から説明できる。
3　社会福祉援助者として果たすべき役割・機能、援助の視点を論じることができる。

●授業内容

1	子ども家庭と女性福祉		
2	障害の早期発見と早期療育		
3	障害児と家族への支援		
4	保育と子育て支援		
5	児童健全育成		
6	ひとり親家庭の動向と生活問題		
7	ひとり親家庭への対策と課題		
8	情緒障害児の理解と支援		
9	少年非行の動向と対策		
10	児童虐待の動向と背景		
11	児童虐待への対策と課題		
12	児童虐待対応の実際		
13	子ども家庭への相談援助活動		
14	施設援助と社会的養護サービス		
15	地域援助活動とネットワーク		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験（70%）・平常点（30%）の割合で評価します。
平常点は、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに判断します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　第１５巻 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」
（中央法規出版）
参考図書：厚生統計協会編集　「国民の福祉の動向」（各年版）（厚生統計協会）

●履修へのアドバイス

必要な資料は授業で配布します。近年「子ども家庭福祉」分野の法改正等があり、変容する領域でもあるため、新聞・テレビ等で報道される社会の話題には関心を持つことが重要です。

権利擁護と成年後見制度　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	倉　本　英　明	

●授業概要

★この授業のねらい

本格的な高齢化社会を迎え、社会福祉の分野で重要度を増している成年後見制度を中心に、社会を取り巻くいろいろな法律について体系的に理解します。

★仕上がり像

1　成年後見制度を中心とした様々な権利擁護制度について、その内容と実際の運用について説明することができる。

●授業内容

1	民法（総則）		
2	民法（契約と消費者保護）		
3	民法（親族）		
4	民法（相続）		
5	成年後見制度(成年後見)		
6	成年後見制度(保佐・補助)		
7	成年後見制度（任意後見制度）		
8	成年後見制度（成年後見人等の義務と責任）		
9	日常生活自立支援事業		
10	権利擁護活動の実際（児童虐待）		
11	権利擁護活動の実際（高齢者・障害者虐待）		
12	権利擁護にかかわる組織・団体		
13	日本国憲法の理解		
14	行政法の理解		
15	まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験及び授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：社会福祉士養成講座編集委員会編集
「新・社会福祉士養成講座　第１９巻　権利擁護と成年後見制度」（中央法規出版）
その他、必要な資料についてはその都度配布します。

●履修へのアドバイス

社会福祉を取り巻く法律・制度には様々なものがあります。国家試験に合格することを常に意識して、講義と確認テストにより知識を正確に定着させてください。

福祉事務所運営論　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	後期
	担当教員	大　場　信　一	

●授業概要

★この授業のねらい

福祉事務所の公的な性格と機能について理解し、福祉事務所の組織と各職種の業務内容、また、関係職種・機関との連携について学習し、今日的な課題の理解を深めます。

★仕上がり像

1　福祉事務所の機能について説明することができる。
2　組織と業務内容について説明することができる。
3　関係機関との連携について説明することができる。

●授業内容

1	ガイダンス（福祉事務所を取り巻く状況）		
2	現代社会の目的と福祉事務所の運営		
3	福祉事務所の成立と歴史的展開		
4	福祉事務所をめぐる政策動向（実施体制の変化）		
5	福祉事務所をめぐる政策動向 （自立支援プログラムの導入）		
6	福祉事務所の成立		
7	福祉事務所制度の展開		
8	福祉事務所の運営と関連諸法		
9	福祉事務所の所管事務を定める主な法律		
10	福祉事務所の組織		
11	福祉事務所の業務		
12	福祉事務所運営指針		
13	福祉事務所と関係機関との連携		
14	福祉事務所の運営と民生委員の役割		
15	社会福祉主事の業務と倫理		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験及び授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：宇山　勝儀　「福祉事務所運営論」（ミネルヴァ書房）

●履修へのアドバイス

テキストのみからの学習だけではなく、新聞記事などにも目を通すなど、社会の動きに対して積極的に関心を持って、学習に取り組んでください。

保健体育・レクリェーションⅢ （全１５回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	伊　東　祥　次	

●授業概要

★この授業のねらい

スポーツを通して心と体の健康づくりを目指すと共に、レクリェーションの展開技術を習得し、人とのつながりの大切さを学びます。

★仕上がり像

1　各種目の実技を通して、心身の健康づくりを体得することができる。
2　レクリェーションによって得られる心の豊かさを実感し、職場で実践することができる。

●授業内容

1	オリエンテーション　からだほぐし運動（ストレッチング：個人、パートナーストレッチング）
2	からだほぐし運動（いろいろな動作を取り入れた運動・とびなわ運動）
3	バスケットボール～基本技術の練習（パス・ドリブル）・ゲーム
4	バスケットボール～基本技術の練習（シュート）・ゲーム
5	バスケットボール～ゲーム
6	バスケットボール～ゲーム
7	バレーボール～基本技術の練習（パス・サーブ）ゲーム（ソフトバレー）
8	バレーボール～基本技術の練習（パス・サーブ・図パイク）ゲーム
9	バレーボール～ゲーム
10	バレーボール～ゲーム
11	バドミントン～ストローク練習　ダブルスゲーム
12	バドミントン～ストローク練習　ダブルスゲーム
13	フットサル　～パス練習とゲーム
14	レクリェーションスポーツ
15	レクリェーションスポーツ

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢・技能テストにより総合評価します。

●教科書・参考図書

自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

1　運動しやすいジャージやＴシャツを着用してください。
2　靴は滑りにくいスポーツシューズを履いてください。
3　タオルやドリンク等暑さ対策をしてください。
4　身体を動かすことに積極的に取り組みましょう。

経済学　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	後期
	担当教員	金　仁子	

●授業概要

★この授業のねらい

この授業の目標は、基本的な経済学原理を理解するだけでなく、それらをさまざまな状況に応用し、経済問題を解く能力をも身に付けることにあります。経済データの分析や経済原理の学修を通じて、学生に現代の経済・社会をみる眼を養ってもらいます。

★仕上がり像

1　経済学の基礎概念や原理を理解し、経済学的な考え方を身に付け、説明することができる。
2　新聞やニュースが報じているトピックなど現実の経済問題に関し、説明することができる。

●授業内容

1	ガイダンス：本講義の概要，経済学とは何か		
2	経済学的な考え方（基本的競争モデル）		
3	経済学的な考え方（合理的選択）		
4	取引と貿易		
5	貨幣の本質とその役割		
6	需要・供給（価格メカニズム）		
7	需要・供給（モノの不足と過剰、価格規制）		
8	需要・供給（課税の経済効果）		
9	市場の失敗：不完全市場		
10	経済における政府の役割		
11	経済成長と雇用		
12	景気循環		
13	インフレーションとデフレーション		
14	経済のグローバル化と貧困問題		
15	本講義の総括		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

日頃から新聞やニュースなどに触れ、現実経済に起こっているさまざまな事象に関心を持つことが求められます。授業内容を振り返り、さらに関心のある事柄について調べることでより知識を深めてください。

精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ （全３０回）	精神保健福祉科	３年	通年
	担当教員	酒　井　　啓	

●授業概要

★この授業のねらい

この科目は精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程、家族調整等）の展開について学習します。そして、精神障害者の地域移行支援に関する基本的な考え方と支援体制の実際について学習し、精神障害者が地域生活を行っていく上で、欠かせないものは何かについて理解します。また、国家試験合格に向けて、知識を養うようにしていきます。

★仕上がり像

1　相談援助技術（個別援助、集団援助の過程、家族支援）の展開について説明できる。
2　地域移行支援、地域リハビリテーションの構成を説明できる。
3　地域生活支援の意義を理解し、事例を用いて、社会資源の活用およびケアマネジメントを行うことができる。
4　国家試験に必要な知識を獲得し、合格に必要な学習方法を計画できる。

●授業内容

1	オリエンテーション	16	アウトリーチ
2	相談援助活動の展開	17	地域生活支援事業と訪問援助
3	事例による相談援助活動の検討	18	家族会およびセルフヘルプグループ
4	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係	19	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
5	家族支援の方法	20	ケアマネジメントの原則
6	事例による家族調整・支援の検討	21	ケアマネジメントの意義と方法
7	地域移行支援の対象・体制	22	ケアマネジメントの展開過程
8	地域移行に関わる機関と組織	23	チームケアとチームワーク
9	事例による地域移行支援の検討	24	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
10	精神障害者を取り巻く社会的状況	25	地域を基盤とした支援の概念と基本的性格
11	地域相談援助の主体	26	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
12	地域相談援助の対象	27	地域を基盤とした支援の具体的展開
13	地域相談援助の体制	28	包括的な支援の意義と展開
14	事例による地域を基盤にした相談援助活動	29	事例による地域生活を支援する包括的な取り組み
15	地域ネットワーク	30	まとめ
			定期試験

●成績評価のしかた

定期試験（31回目に実施）、授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量、討論への積極性、課題の提出などをもとに総合評価する。

●教科書・参考図書

精神保健福祉士養成講座編集委員会編集　「新・精神保健福祉士養成講座　第５巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ」　（中央法規出版）

●履修へのアドバイス

この科目は精神保健福祉士の国家試験の専門科目の中で一番問題数が多い科目である。その為、国家試験の問題に触れる機会を作ります。卒業後を見据えた準備も行っていきましょう。また、精神保健福祉援助実習に向けた具体的な知識を習得する機会を作りますので、しっかりと習得していただきたい。

精神保健福祉援助演習　（全３０回）	精神保健福祉科	３年	通年
	担当教員	佐　藤　誉　匡	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉援助の知識と技術に係わる他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、具体的な相談援助の事例や援助場面を想定したロールプレーなどを用いて、精神保健福祉士に求められる総合的な相談援助の知識及び技術と専門性について習得することを目標とします。

★仕上がり像

1　自己覚知を深めることができる。
2　面接、記録、情報収集と分析、グループワークとケースワークの技術を身に付け実践できる。
3　精神保健福祉の課題を理解し、解決に向けた実践的な援助方法を考える能力を向上させることができる。
4　精神保健福祉援助実習で体験し得られた知識や技術を説明することができる。

●授業内容

1	ソーシャルアクション（偏見除去の取組み）	16	実習の振り返り
2	ジェノグラムとエコマップ(アセスメント)	17	企業側から見た障害者の雇用
3	ジェノグラムとエコマップ（作成、まとめ）	18	状況の分析
4	自分の価値観	19	状況の対処
5	就労支援のプログラム	20	電話相談（準備）
6	障害のオープンとクローズ	21	電話相談（実施）
7	相談場面での傾聴・共感的理解	22	電話相談（記録）
8	ウォーミングアップ（計画）	23	電話相談（まとめ）
9	ウォーミングアップ（準備、調整）	24	作業工程表の作成 ～ ボールペンの組み立て
10	ウォーミングアップ（実施）	25	危機状態にある精神障害者への支援（検討）
11	ウォーミングアップ（まとめ）	26	危機状態にある精神障害者への支援（まとめ）
12	事例検討 ～ 課題整理（クライエント理解）	27	ロールプレイと記録（クライエント理解）
13	事例検討 ～ 課題整理（課題整理表の作成）	28	ロールプレイと記録（クライエント対応）
14	事例検討 ～ 個別支援計画（到達目標）	29	ロールプレイと記録（対応評価、まとめ）
15	事例検討 ～ 個別支援計画（支援内容、まとめ）	30	総合まとめ

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、発表や発言の質と量、討論への積極性、提出物などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

精神保健福祉専門科目の講義と精神保健福祉援助実習を結びつける授業です。まずは精神保健福祉援助実習に向けての必要な実践技術や視点の習得を目指し、積極的に取り組んでいきましょう。また『見る』『話す』『聞く』『考える』ことを毎回意識して取り組み、自分自身の価値観も深めていきましょう。

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　（全３０回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉援助実習が円滑に進められるように、講義及び演習を通じて基本的知識や精神障害者に対する援助技術について学び、理解を深めます。また、実習に備え実習目標・実習計画書の作成を行います。

障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）以降、施設体系が変わり、地域移行の推進や対象の拡大、また就労支援の促進など障害者のさまざまなニーズに応えるため、より多様な実践が展開されています。このニーズに応えるために必要な、個別支援、他機関との連携、地域ネットワークについても理解を深めます。

★仕上がり像

1　実習に必要な実践的な知識を獲得し、実施することができる。
2　実習期間中の目標を明確化することができる。
3　それぞれの実習施設の意義やそこでの精神保健福祉士の役割を説明することができる。
4　実習の経験を振り返り、報告書・報告会でまとめることができる。

●授業内容

1	精神保健福祉援助実習に向けて	16	事前訪問について発表
2	実習の目的・達成課題	17	実習に向けての心構え
3	実習現場の実際（病院）	18	実習の振り返り（グループワーク）
4	実習現場の実際（地域活動支援センター）	19	実習の振り返り（クラスにて報告）
5	実習現場の実際（就労支援事業所）	20	実習後の自己コンピテンス
6	実習病院・施設事前訪問のマナー	21	実習報告書作成（実習先基本情報について）
7	事例検討（利用者理解）	22	実習報告書作成（実習で学んだこと）
8	事例検討（対応に困った事例）	23	実習報告書作成（全体の見直し）
9	実習計画書の作成（目標設定の検討）	24	実習報告書作成（完成）
10	実習計画書の作成(目標設定の決定)	25	実習報告会総練習
11	実習計画書の作成（目標達成のための計画検討）	26	実習報告会に向けて
12	実習計画書の作成（目標達成の計画立案）	27	実習報告会
13	実習計画書の作成（完成）	28	実習報告会
14	自己コンピテンス	29	実習報告会
15	自己コンピテンス　フィードバック	30	実習報告会

●成績評価のしかた

提出物・授業への取り組み姿勢・実習計画書・実習報告書・実習報告会などをもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

良い実習になるかどうかは、事前学習、終了後の振り返りがポイントになります。医療機関と障害福祉サービス事業所の２ヶ所の実習先となり、実習計画書や実習報告書の作成は２年次に比べて２倍となるため、計画的に取り組んでください。

精神保健福祉援助実習　（全１５０時間）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	各実習機関指導担当者 佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉援助実習は、これまで講義や演習で学んできた知識や技術を精神科病院・クリニックや障害福祉サービス事業所等の現場で活用し現場についての理解を深めるとともに、精神保健福祉の現状や医療・福祉施設を利用する精神障害者の現状を直接体験する貴重な機会です。実習を通して各自が、精神保健福祉士としての自己の資質を高め、専門職としての知識や技術の定着を図ることが目的です。

★仕上がり像

1　実習現場で活用できる知識や技能を獲得し、実施することができる。
2　クライエントや実習指導者との関係性を構築することができる。
3　それぞれの実習施設の意義やそこでの精神保健福祉士の役割を説明することができる。
4　実習の経験をスーパービジョンにより深め、報告書・報告会でまとめることができる。

●授業内容

	精神科病院等実習（９０時間） 第１週　実習機関の理解、各部門・職種の理解 １日の流れを把握 第２週　対象者の理解 第３週　精神保健福祉士の役割・特性を理解		障害福祉サービス事業（６０時間） 第１週　実習機関の理解、各部門・職種の理解 １日の流れを把握 第２週　対象者の理解と 精神保健福祉士の役割・特性を理解

●成績評価のしかた

実習機関の評価、実習巡回時の状況等により総合的に評価します。

●教科書・参考図書

自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

実習先が医療機関と障害者福祉サービス事業所の２ヶ所となり、２年次に比べて１ヶ所の実習期間が短くなるため、実習初日から積極的に取り組むことを期待します。また、実習中に知り得た個人情報については守秘義務と個人情報保護法を遵守してください。

社会・精神福祉総論Ⅲ　（全３８回）	精神保健福祉科	３年	通年
	担当教員	佐藤誉匡・酒井啓・福島令佳・飯島英幸	

●授業概要

★この授業のねらい

精神保健福祉科は、３年間で精神保健福祉士と社会福祉士の国家試験科目を履修します。
卒業後、指定施設における相談援助業務に従事し、実務経験１年を有することにより国家試験の受験資格を得ます。
３年次においては、２年次に引き続き国家試験共通科目及び専門科目の小テストにチャレンジした後、解答・解説を通し重要事項を再認識し知識の定着を図り、在学中から国家試験に合格できる力を身に付けていきます。

★仕上がり像

1　国家試験の小テストを通し、国家試験の実施体制に慣れ、主体的に取組むことができる。
2　小テストで現在の自己の実力を認識することができる。
3　解答・解説を通し、共通科目及び専門科目の不得意科目を克服することができる。

●授業内容

1	一般教養演習（国家試験に向けて）	20	社会福祉士専門科目演習
2	共通科目演習	21	社会福祉士専門科目演習
3	共通科目演習	22	一般教養演習
4	共通科目演習	23	共通科目演習
5	共通科目演習	24	共通科目演習
6	共通科目演習	25	共通科目演習
7	共通科目演習	26	共通科目演習
8	一般教養演習	27	共通科目演習
9	精神保健福祉士専門科目演習	28	共通科目演習
10	精神保健福祉士専門科目演習	29	一般教養演習
11	精神保健福祉士専門科目演習	30	精神保健福祉士専門科目演習
12	精神保健福祉士専門科目演習	31	精神保健福祉士専門科目演習
13	精神保健福祉士専門科目演習	32	精神保健福祉士専門科目演習
14	精神保健福祉士専門科目演習	33	精神保健福祉士専門科目演習
15	一般教養演習	34	精神保健福祉士専門科目演習
16	社会福祉士専門科目演習	35	精神保健福祉士専門科目演習
17	社会福祉士専門科目演習	36	一般教養演習
18	社会福祉士専門科目演習	37	共通科目演習
19	社会福祉士専門科目演習	38	共通科目演習

●成績評価のしかた

定期試験は行いませんが、小テストの結果、授業時間に課す課題などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

参考図書：各科目教科書、社会福祉用語辞典、
社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック編集委員会 社会福祉士・精神保健福祉士受験ワークブック（共通科目編）　（中央法規出版）
日本精神保健福祉士協会編集 精神保健福祉士受験ワークブック（専門科目）（中央法規出版）
プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

国家試験の出題範囲は広範囲となるため、在学中から苦手科目を少しでも減らしていくことが合格の近道となります。そのために、過去問題や小テストを繰り返し行うことで、共通科目・精神保健福祉士や社会福祉士の専門科目に慣れること。そして、問題の出題傾向を把握し継続して勉強することがとても大切です。

情報と医療福祉Ⅱ　　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	大 西　秀 樹・酒 井　啓	

●授業概要

★この授業のねらい

いろいろな業務でパソコンが利用されていますが、その中でも表計算ソフトの利用価値は非常に高いものといえます。このため表計算ソフトの操作をマスターし、活用できることは大変有益です。

本科目では、Ｅｘｃｅｌを活用して表の作成・編集方法、数式の入力、関数の利用方法およびグラフの作成・編集などの操作を習得し、卒業後の業務に活用できる実力を養うことを目的とします。

★仕上がり像

１　Ｅｘｃｅｌを使用して各種の表を作成することができる。
２　数式や関数および書式を駆使した複雑な表を作成することができる。

●授業内容

1	オリエンテーションとExcel2019の特徴		
2	便利な入力方法の習得		
3	基本的な統計関数による集計		
4	条件付き書式と基本的なグラフの作成		
5	実用的なグラフの作成		
6	演習（表とグラフ）		
7	データの整理・抽出		
8	条件付き集計関数		
9	他のアプリケーションでのExcelの利用		
10	社会調査の計画		
11	調査票の作成		
12	調査したデータの集計		
13	調査したデータの分析		
14	調査結果の発表		
15	演習（総まとめ）		
	定期試験		

●成績評価のしかた

課題の提出状況と定期試験の結果を総合して評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：実教出版開発部　「Windows１０対応　30時間でマスター　Excel2016」（実教出版）
およびオリジナルプリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

医療や福祉に関連する業務において、データリストの作成や報告書を如何に効率良く、分り易く作成することは非常に重要です。自分で入力するだけでなく、他のスタッフにも依頼することを考慮した表の作成を心がけましょう。

医事会計　　（全１５回）	精神保健福祉科	３年	後期
	担当教員	吉　村　真 美 子	

●授業概要

★この授業のねらい

医療保険制度、保険診療の流れについて学習します。
１５回の授業で初診患者のカルテの作成、カルテの内容での料金計算、レセプトの作成までの一連の流れを身に付けます。
２年ごとに改正される医療保険の診療報酬の動きと公費の関係についても学習します。

★仕上がり像

1　診療報酬の流れについて説明することができる。
2　医療保険と介護保険等との連携について述べることができる。

●授業内容

1	医療機関に受診する時の知識		
2	医療保険の始まり・保険の種類		
3	人体の名称・人体の構造・薬に関する知識		
4	検体検査と生体検査、レントゲンの種類		
5	初診料の算定方法		
6	再診料・外来診療料の違いと算定方法		
7	医学管理料の対象疾患、算定条件・回数		
8	在宅療養について管理料・指導料の学習		
9	検体検査・生体検査の算定方法		
10	投薬・注射の算定方法		
11	処置・手術・麻酔・神経ブロックの算定		
12	カルテの作成、内容を読み取り点数算定		
13	レセプト作成の手順と流れ		
14	公費の種類、算定内容について学習		
15	総まとめ		
	定期試験		

●成績評価のしかた

定期試験は１６回目に実施。授業への取り組み姿勢、発表や発言の質・量などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教 科 書：青山　美智子　「診療報酬完全攻略マニュアル」　（医学通信社）
自作プリントを配布して使用します。

●履修へのアドバイス

教科書には記載されていない医療現場での体験等を皆さんに伝えていくので聞き逃さないでほしいです。自分自身が医療機関に受診した時に役立つ授業を目指します。授業の中で電卓を使用します。

手　話　（全15回）	精神保健福祉科	３年	後期
	担当教員	河　村　明　子	

●授業概要

★この授業のねらい

聴覚障害者の生活とそれに関連する福祉制度などについての理解と認識を深め、手話でコミュニケーションするときに必要な手話単語及び手話表現の習得を目指します。

★仕上がり像

1　手話でスムーズに会話することががができる。
2　聴覚障害者に関する福祉制度などを説明することができる。
3　コミュニケーションに必要な手話表現ができる。

●授業内容

1	オリエンテーション、伝えあってみましょう　＊聴覚障害の基礎知識
2	自己紹介をしましょう（名前の手話）　○手話の基礎知識
3	自己紹介をしましょう（家族の手話）
4	自己紹介をしましょう（数字の手話）
5	映像レポート　＊聴覚障害の基礎知識
6	自己紹介をしましょう（趣味の手話）　＊聴覚障害の基礎知識
7	自己紹介をしましょう（仕事の手話）　＊聴覚障害の基礎知識
8	自己紹介をしましょう（住所の手話）
9	まとめ　　小テスト
10	札幌市視聴覚障がい者情報センターの役割について（札幌市の制度）
11	話しかけてみましょう（１日と１か月のこと）　＊聴覚障害の基礎知識
12	話しかけてみましょう（１年のこと）　＊聴覚障害の基礎知識
13	話しかけてみましょう（医療に関する手話）　＊聴覚障害の基礎知識
14	話しかけてみましょう（職場・福祉に関する手話）
15	総合学習
	定期試験

●成績評価のしかた

定期試験は１６回目に実施します。
定期試験、レポート、小テスト、授業への取り組み姿勢等をもとに総合評価します。

●教科書・参考図書

教科書：さっぽろの手話（公益社団法人 札幌聴覚障害者協会）
その他、プリント教材を配付します。

●履修へのアドバイス

聴覚障害者が使う『手話』は目で見る言葉です。手話を習得するために、講師の手話をよく見て表現しましょう。積極的に手話でコミュニケーションを取り、分からないことはすぐにたずねて理解を深めましょう。

接遇マナーⅡ　（全８回）	精神保健福祉科	３年	前期
	担当教員	坪　崎　美 佐 緒	

●授業概要

★この授業のねらい

円滑な社会的な生活を営むためには、社会人としてのマナーが必要です。聞くことや伝えることなどの最低限のマナーを身に付け、しっかりと実習や就職活動に望める力を育みます。また、卒業後も社会人、組織人として活躍できるように、実践で生かせるマナーを身に付けます。

★仕上がり像

1　社会人として適切な挨拶ができ、敬語や接遇のマナーが実践することができる。
2　就職試験の際、自分をしっかりアピールすることができる。

●授業内容

1	学生と社会人の違い		
2	好印象を与えるマナー（挨拶と自己紹介・面接）		
3	好印象を与えるマナー（面接のマナー）		
4	好印象を与えるマナー（面接のマナー）		
5	敬語のマナー（電話応対・敬語）		
6	就職に向けたマナー（文章力）		
7	就職に向けたマナー（冠婚葬祭）		
8	まとめ		

●成績評価のしかた

授業への取り組み姿勢、グループディスカッションへの積極性、発表や発言の質・量などを総合的に評価します。

●教科書・参考図書

教科書①マナー&プロトコールの基礎知識（NPO法人日本マナー・プロトコール協会）
教科書②:松本　昌子「ゼロから教えてビジネスマナー」（かんき出版社）
プリント教材を配布して使用します。

●履修へのアドバイス

どんなに知識が豊富でも、「当たり前のこと」がしっかりとできないことには評価されません。逆に「当たり前のこと」がしっかりできると、周りからも認められ、信頼されるものです。「当たり前のこと」を当たり前にできるようになって、ワンランク上の社会人を目指しましょう。